

授業科目名	総合文学演習 (4A)
科目番号	02DS107
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 6
担当教員	青柳 悦子, 加藤 百合, 齋藤 一, 吉原 ゆかり
授業概要	多様な素材と地域を対象に文学の総合的研究方法を発表形式で身につける。あわせて研究倫理について理解を深める。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	研究発表を通して、最近の文学・文化理論を学びつつ、研究能力を総合的に発展させる。
授業計画	毎回、受講者の研究発表をもとにディスカッションをおこなう。 担当順やテーマは受講者との調整による。
成績評価方法	
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	文学・文化理論, 研究技法, 発表技術

授業科目名	総合文学演習 (4B)
科目番号	02DS108
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 6
担当教員	青柳 悦子, 加藤 百合, 齋藤 一, 吉原 ゆかり
授業概要	春学期に継続して、多様な素材と地域を対象に文学の総合的研究方法を発表形式で身につける。あわせて研究倫理について理解を深める。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	春学期に引き続き、研究発表を通して、最近の文学・文化理論を学びつつ、研究能力を総合的に発展させる。
授業計画	毎回、受講者の研究発表をもとにディスカッションをおこなう。 担当順やテーマは受講者との調整による。
成績評価方法	
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	文学・文化理論, 研究技法, 発表技術

授業科目名	文学理論研究 (4A)
科目番号	02DS117
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 5
担当教員	青柳 悦子
授業概要	自由間接話法に関するさまざまな論文を読み、研究する
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	文学研究にとって有効な現代諸理論に習熟し、受講生各自の研究に生かす。
授業計画	今学期は小説の語りで用いられる自由間接話法をめぐる諸研究ほか、受講生の研究に関連する文献を読み、各自の研究の進展に生かす予定。
成績評価方法	
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	文学理論, 文学研究方法論

授業科目名	文学理論研究 (4B)
科目番号	02DS118
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 5
担当教員	青柳 悦子
授業概要	受講者とともに演習形式で小説の叙述分析をおこなう
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	春学期に引き続き、文学研究にとって有効な現代諸理論に習熟し、受講生各自の研究に生かす。
授業計画	各受講者に連続して数回にわたって理論的典拠となる文献、先行研究などを提示してもらい、全員で検討する。 また、各受講者の研究を全員で検討する。
成績評価方法	
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	現代文学理論, 文学研究方法論

授業科目名	文学文化論研究 (4A)
科目番号	02DS137
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 月 3
担当教員	齋藤 一
授業概要	欧米の重要な批評書を輪読する。批評書が論じている可能な限り作品も読む。なお、日本語訳を使用するが、必要に応じて原典も参照する。
備考	中間評価論文の執筆を目指している学生向けの授業とする。 2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	文学作品の研究に必要な基礎知識 (主に文学理論) を身につけることを目標とする。
授業計画	大貫・河野・川端編『文化と社会を読む 批評キーワード辞典』の輪読を予定している。 第 1 回どの項目を誰が担当するのかについて受講者と議論しながら決定する。
成績評価方法	授業への参加態度、貢献度、期末レポートによって総合的に判断する。
教科書	1. 大貫隆史・河野真太郎・川端康雄 (編), 『文化と社会を読む 批評キーワード辞典』 研究社、2013 年
参考書	授業中に適宜指示する。
オフィスアワー	月曜日の 2 限とする。
TF・TA	
キーワード	批評, 文化, 社会

授業科目名	文学文化論研究 (4B)
科目番号	02DS138
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 月 3
担当教員	齋藤 一
授業概要	欧米の重要な批評書を輪読する。批評書が論じている可能な限り作品も読む。なお、日本語訳を使用するが、必要に応じて原典も参照する。
備考	中間評価論文の執筆を目指している学生向けの授業とする。 2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	文学作品の研究に必要な基礎知識 (主に文学理論) を身につけることを目標とする。
授業計画	大貫・河野・川端編『文化と社会を読む 批評キーワード辞典』の輪読を予定している。 第 1 回どの項目を誰が担当するのかについて受講者と議論しながら決定する。
成績評価方法	授業への参加態度、貢献度、期末レポートによって総合的に判断する。
教科書	1. 大貫隆史・河野真太郎・川端康雄 (編), 『文化と社会を読む 批評キーワード辞典』 研究社、2013 年
参考書	授業中に適宜指示する。
オフィスアワー	月曜日の 2 限とする。
TF・TA	
キーワード	批評, 文化, 社会

授業科目名	文学文化論演習 (4A)
科目番号	02DS147
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 月 4
担当教員	齋藤 一
授業概要	最新の批評理論を知る上で必要不可欠な著作をとりあげ輪読する。日本語訳を主に使用するが、必要に応じて原典も参照する。
備考	博士論文執筆を目指す学生向けの授業となる。 2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	欧米で出版された重要な批評書 (日本語訳) を読み、議論をおこなう。
授業計画	エドワード・W・サイード『文化と帝国主義』1 の輪読を予定している。 第 1 回どの項目を誰が担当するのかについて受講者と議論しながら決定する。
成績評価方法	授業への参加態度、貢献度、期末レポートによって総合的に判断する。
教科書	1. エドワード・W・サイード、『文化と帝国主義』1、みすず書房、1998 年
参考書	授業中に適宜指示する。なお、『文化と帝国主義』はオリジナルの英語版 (ペーパーバック) を用意しておくことが望ましい。 1. Edward W Said, Culture and Imperialism, Vintage, 1994.
オフィスアワー	月曜日の 2 限とする。
TF・TA	
キーワード	文化, 文学, 帝国主義, ポストコロニアル

授業科目名	文学文化論演習 (4B)
科目番号	02DS148
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 月 4
担当教員	齋藤 一
授業概要	最新の批評理論を知る上で必要不可欠な著作をとりあげ輪読する。日本語訳を主に使用するが、必要に応じて原典も参照する。
備考	博士論文執筆を目指す学生向けの授業となる。 2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	欧米で出版された重要な批評書 (日本語訳) を読み、議論をおこなう。
授業計画	エドワード・W・サイード『文化と帝国主義』 2 の輪読を予定している。 第 1 回どの項目を誰が担当するのかについて受講者と議論しながら決定する。
成績評価方法	授業への参加態度、貢献度、期末レポートによって総合的に判断する。
教科書	1. エドワード・W・サイード、『文化と帝国主義』 2、みすず書房、2001 年
参考書	授業中に適宜指示する。なお、『文化と帝国主義』はオリジナルの英語版 (ペーパーバック) を用意しておくことが望ましい。 1. Edward W Said, Culture and Imperialism, Vintage, 1994.
オフィスアワー	月曜日の 2 限とする。
TF・TA	
キーワード	文化, 文学, 帝国主義, ポストコロニアル

授業科目名	文学交流論研究 (4B)
科目番号	02DS158
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 3
担当教員	吉原 ゆかり
授業概要	文学交流に関わる初歩的な研究論文 (英語・日本語) を読む。Readings in academic articles on cultural exchanges (English and Japanese).
備考	英語・日本語を併用する。Classes are given both in English and Japanese. 2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	日本語もしくは英語で書かれた、文化テキスト (文学、映画、マンガを含む) の詳細で批判的な精読に関する研究。
授業計画	日本語もしくは英語で書かれた文化テキストを読解し、論文作成にいたるプロセスを習得する。 第 1 回受講者の中期～長期の研究計画に応じて、英語もしくは日本語で書かれた文化テキストを選出する。詳しい日程については、授業初回で指示する。
成績評価方法	出席、授業への貢献、最終課題を総合的に評価する。
教科書	1. 別途指示する。
参考書	
オフィスアワー	火 2。人社 A515。
TF・TA	
キーワード	文化, 交流, 理論

授業科目名	文学交流論演習 (4B)
科目番号	02DS168
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 3
担当教員	吉原 ゆかり
授業概要	英語もしくは日本語で書かれた文化テキストの精読。Close and critical readings of literatures written in Japanese and English.
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	英語もしくは日本語による、文化交流に関するテキストの精読。
授業計画	日本語もしくは英語で制作された、文化・文学テキストを批判的に精読する訓練を行う。 第 1 回受講者の中期～長期の研究計画に即して、文化・文学テキストの選択を行う。 詳細については、初回の授業で指示する。
成績評価方法	
教科書	1. 別途指示する。
参考書	西成彦「胸騒ぎの鷗外」人文書院 細川周平編「日系ブラジル移民文学」2 巻、人文書院 加藤めぐみ「オーストラリア文学にみる日本人像」東京大学出版会 レイモンド・ウィリアムズ「共通文化にむけて 文化研究 1」みすず書房
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	文化, 交流, 文学, テキスト, 精読

授業科目名	比較文学研究 (4)
科目番号	02DS174
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 3
担当教員	加藤 百合
授業概要	明治時代の文学状況を比較文学的に捉える。初出 (当時のかた ち) テキストを読む訓練をおこなう。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	日本近代の文学およびそれを成り立たせていた時代思潮について一次資料を読みながら考察する。
授業計画	明治時代になり、文学の担い手も、読者も、また発表される機関も変わった。西洋文化の移入、教育内容の変化、文学者の教養や読書範囲、といったことを勘案しながら、当時の発表形態で文学作品を読んでゆく。 第 1 回~第 15 回まで、順次明治 10 年代上下、明治 20 年代上下、明治 30 年代上下、明治 40 年代上下、大正時代上中下、と話を進めることも考えているが、履修者の関心の範囲を勘案する。時代と内容に応じ、随時担当を指名して演習形式も導入する。
成績評価方法	とにかく毎回出席し主体的に参加してほしい。私の話題提供に対して自らの意見、情報、を出してくれることを期待。
教科書	随時補助資料は配布する。また、読んでおいてほしい資料を指示する。
参考書	
オフィスアワー	加藤百合 QWP10153@nifty.com
TF・TA	
キーワード	近代, 明治, 文学, 翻訳, 翻案

授業科目名	比較文学演習 (4)
科目番号	02DS179
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 3
担当教員	加藤 百合
授業概要	翻訳などさまざまなかたちで西欧文化を摂取しようとした過程、またその過程において生じた誤解や変容について、演習形式で多面的にとりあげる。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	各自が近代日本の文学に生じた問題や興味深い現象を発見して調べ、発表を担当する。
授業計画	比較文学研究 (4) を履修していることを前提として行なう演習。自分の専攻研究、自らの関心にひきつけて、比較文学的テーマを見出して順次発表してゆく。 第 1 回 ~ 15 回 履修者が順次発表し、その内容について補足を行ったり討論をしたりすることで授業を進める。
成績評価方法	自分の担当のときには、必要な資料を調査し、考察を加え、適切なハンドアウトを作成する。毎回出席し、他の人の発表に積極的に参加する。
教科書	特に指定しない。各自が指定してゆく。
参考書	同上
オフィスアワー	加藤百合 QWP10153@nifty.com
TF・TA	
キーワード	近代, 文学, 翻訳, 翻案, 影響, 文学伝統

授業科目名	西洋古典学研究 (4A)
科目番号	02DS209
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 金 5
担当教員	秋山 学
授業概要	ギリシア語文献研究. 受講者の研究対象に応じて, ギリシア美術史関係の論文を読む. 現代ギリシア語文献もありうる.
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	古典ギリシア語文献の講読を通じ, 高度な思索力を涵養するばかりでなく, 神話世界の神秘性を体得することを目指す.
授業計画	今年度は, ギリシア美術史に関わる文献を講読する予定. 必要に応じて現代ギリシア語の文献を援用する. 第 1 回プロコピオス 『建築物について』 1. 第 2 回プロコピオス 『建築物について』 2. 第 3 回プロコピオス 『建築物について』 3. 第 4 回プロコピオス 『建築物について』 4. 第 5 回プロコピオス 『建築物について』 5. 第 6 回プロコピオス 『建築物について』 6. 第 7 回プロコピオス 『建築物について』 7. 第 8 回プロコピオス 『建築物について』 8. 第 9 回プロコピオス 『建築物について』 9. 第 10 回プロコピオス 『建築物について』 10. 第 11 回プロコピオス 『建築物について』 11. 第 12 回プロコピオス 『建築物について』 12. 第 13 回プロコピオス 『建築物について』 13. 第 14 回プロコピオス 『建築物について』 14. 第 15 回プロコピオス 『建築物について』 15.
成績評価方法	授業期間中の出席・課題の達成度に拠る.
教科書	授業中にコピーして配布する. 1. H.B.Dewing(ed.),Procopius:On Buildings, Loeb Classical Library 343, 1954.
参考書	
オフィスアワー	必要に応じて随時対応する. 希望者は akiyama.manabu.gf@u.tsukuba.ac.jp に連絡されたい.
TF・TA	
キーワード	ギリシア神話.

授業科目名	西洋古典学研究 (4B)
科目番号	02DS210
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 金 5
担当教員	秋山 学
授業概要	ギリシア語文献研究. 前期の継続. 現代ギリシア語文献もあり得る.
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	古典ギリシア語文献の講読を通じ, 高度な思索力を涵養するばかりでなく, 神話世界の神秘性を体得することを目指す. 前期の継続.
授業計画	今年度は, ギリシア美術史に関わる文献を講読する予定. 必要に応じて現代ギリシア語の文献を援用する. 前期の継続. 第 1 回プロコピオス 『建築物について』 16. 第 2 回プロコピオス 『建築物について』 17. 第 3 回プロコピオス 『建築物について』 18. 第 4 回プロコピオス 『建築物について』 19. 第 5 回プロコピオス 『建築物について』 20. 第 6 回プロコピオス 『建築物について』 21. 第 7 回プロコピオス 『建築物について』 22. 第 8 回プロコピオス 『建築物について』 23. 第 9 回プロコピオス 『建築物について』 24. 第 10 回プロコピオス 『建築物について』 25. 第 11 回プロコピオス 『建築物について』 26. 第 12 回プロコピオス 『建築物について』 27. 第 13 回プロコピオス 『建築物について』 28. 第 14 回プロコピオス 『建築物について』 29. 第 15 回プロコピオス 『建築物について』 30.
成績評価方法	授業期間中の出席・課題の達成度に拠る.
教科書	授業中にコピーして配布する. 1. H.B.Dewing(ed.),Procopius: On Buildings (LCL 343), 1954.
参考書	授業中に適宜指示する.
オフィスアワー	必要に応じて随時対応する. 希望者は akiyama.manabu.gf@u.tsukuba.ac.jp に連絡を取られたい.
TF・TA	
キーワード	ギリシア神話.

授業科目名	西洋古典学演習 (4A)
科目番号	02DS219
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 金 4
担当教員	秋山 学
授業概要	ラテン語文献およびイタリア語文献研究. 受講者の研究対象に応じて, 肉筆ラテン語写本をも対象とする.
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	古典ラテン語韻文の講読を通じて, 高度な思索力を涵養するとともに, ギリシア・ローマ神話と神秘の世界に近づく道を知る. イタリア語文献を活用し, ラテン語とイタリア語双方に通じることを目指す.
授業計画	<p>ホラティウス諷刺詩研究.</p> <p>第 1 回ホラティウス『諷刺詩』1. 第 2 回ホラティウス『諷刺詩』2. 第 3 回ホラティウス『諷刺詩』3. 第 4 回ホラティウス『諷刺詩』4. 第 5 回ホラティウス『諷刺詩』5. 第 6 回ホラティウス『諷刺詩』6. 第 7 回ホラティウス『諷刺詩』7. 第 8 回ホラティウス『諷刺詩』8. 第 9 回ホラティウス『諷刺詩』9. 第 10 回ホラティウス『諷刺詩』10. 第 11 回ホラティウス『諷刺詩』11. 第 12 回ホラティウス『諷刺詩』12. 第 13 回ホラティウス『諷刺詩』13. 第 14 回ホラティウス『諷刺詩』14. 第 15 回ホラティウス『諷刺詩』15.</p>
成績評価方法	授業期間中の評価と課題の達成度による.
教科書	<p>授業中にコピーして配布する.</p> <p>1. Marco Beck(a cura di),Orazio: Satire, Mondadori 1994.</p>
参考書	授業中に適宜指示する.
オフィスアワー	必要に応じて随時対応する. 希望者は akiyama.manabu.gf@u.tsukuba.ac.jp に連絡を取られたい.
TF・TA	
キーワード	ギリシア・ローマ神話. イタリア語.

授業科目名	西洋古典学演習 (4B)
科目番号	02DS220
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 金 4
担当教員	秋山 学
授業概要	ラテン語文献およびイタリア語文献研究 (前期の継続). 写本研究も含める.
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	古典ラテン語韻文の講読を通じて, 高度な思索力を涵養するとともに, ギリシア・ローマ神話と神秘の世界に近づく道を知る. イタリア語文献を活用し, ラテン語とイタリア語双方に通じることを目指す. 前期の継続.
授業計画	<p>ホラティウス『諷刺詩』. 前期の継続.</p> <p>第 1 回ホラティウス『諷刺詩』 16.</p> <p>第 2 回ホラティウス『諷刺詩』 17.</p> <p>第 3 回ホラティウス『諷刺詩』 18.</p> <p>第 4 回ホラティウス『諷刺詩』 19.</p> <p>第 5 回ホラティウス『諷刺詩』 20.</p> <p>第 6 回ホラティウス『諷刺詩』 21.</p> <p>第 7 回ホラティウス『諷刺詩』 22.</p> <p>第 8 回ホラティウス『諷刺詩』 23.</p> <p>第 9 回ホラティウス『諷刺詩』 24.</p> <p>第 10 回ホラティウス『諷刺詩』 25.</p> <p>第 11 回ホラティウス『諷刺詩』 26.</p> <p>第 12 回ホラティウス『諷刺詩』 27.</p> <p>第 13 回ホラティウス『諷刺詩』 28.</p> <p>第 14 回ホラティウス『諷刺詩』 29.</p> <p>第 15 回ホラティウス『諷刺詩』 30.</p>
成績評価方法	授業期間中の評価と課題の達成度による.
教科書	<p>授業中にコピーして配布する.</p> <p>1. Marco Beck(a cura di),Orazio: Satire, Mondadori 1994.</p>
参考書	
オフィスアワー	必要に応じて随時対応する. 希望者は akiyama.manabu.gf@u.tsukuba.ac.jp に連絡を取られたい.
TF・TA	
キーワード	ギリシア・ローマ神話, イタリア語.

授業科目名	古典古代学研究 (4A)
科目番号	02DS229
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 応談
担当教員	秋山 学
授業概要	セム語 (ヘブライ語) 文献研究. 旧約聖書テキスト講読の予定.
備考	この科目の開講曜時限は「応談」であるので, 受講希望者は事前に担当教員と連絡を取ることに, 2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	旧約聖書のヘブライ語による原典研究を通じて, 旧約思想の中心について知る.
授業計画	『イザヤ書』のヘブライ語による原典研究. 第 1 回 『イザヤ書』 講読 (その 1). 第 2 回 『イザヤ書』 講読 (その 2). 第 3 回 『イザヤ書』 講読 (その 3). 第 4 回 『イザヤ書』 講読 (その 4). 第 5 回 『イザヤ書』 講読 (その 5). 第 6 回 『イザヤ書』 講読 (その 6). 第 7 回 『イザヤ書』 講読 (その 7). 第 8 回 『イザヤ書』 講読 (その 8). 第 9 回 『イザヤ書』 講読 (その 9). 第 10 回 『イザヤ書』 講読 (その 10). 第 11 回 『イザヤ書』 講読 (その 11). 第 12 回 『イザヤ書』 講読 (その 12). 第 13 回 『イザヤ書』 講読 (その 13). 第 14 回 『イザヤ書』 講読 (その 14). 第 15 回 『イザヤ書』 講読 (その 15).
成績評価方法	授業期間中の評価と課題の達成度による.
教科書	授業中にコピーして配布する. 1. D.Winton Thomas(ed.),Liber JESAI AE, Stuttgart, 1990.
参考書	授業中に適宜指示する.
オフィスアワー	必要に応じて随時対応する. 希望者は akiyama.manabu.gf@u.tsukuba.ac.jp に連絡を取られたい.
TF・TA	
キーワード	『イザヤ書』

授業科目名	古典古代学研究 (4B)
科目番号	02DS230
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 応談
担当教員	秋山 学
授業概要	セム語 (ヘブライ語) 文献研究. 旧約聖書テキスト講読の予定 (前期の継続).
備考	この科目の開講曜時限は「応談」であるので, 受講希望者は事前に担当教員と連絡を取ることに, 2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	旧約聖書のヘブライ語による原典研究を通じて, 旧約思想の中心について知る.(前期の継続).
授業計画	『イザヤ書』のヘブライ語による原典研究. 第 1 回 『イザヤ書』 講読 (その 16). 第 2 回 『イザヤ書』 講読 (その 17). 第 3 回 『イザヤ書』 講読 (その 18). 第 4 回 『イザヤ書』 講読 (その 19). 第 5 回 『イザヤ書』 講読 (その 20). 第 6 回 『イザヤ書』 講読 (その 21). 第 7 回 『イザヤ書』 講読 (その 22). 第 8 回 『イザヤ書』 講読 (その 23). 第 9 回 『イザヤ書』 講読 (その 24). 第 10 回 『イザヤ書』 講読 (その 25). 第 11 回 『イザヤ書』 講読 (その 26). 第 12 回 『イザヤ書』 講読 (その 27). 第 13 回 『イザヤ書』 講読 (その 28). 第 14 回 『イザヤ書』 講読 (その 29). 第 15 回 『イザヤ書』 講読 (その 30).
成績評価方法	授業期間中の評価と課題の達成度による.
教科書	授業中にコピーして配布する. 1. D.Winton Thomas(ed.), Liber JESAJAE, Stuttgart 1990.
参考書	授業中に適宜指示する.
オフィスアワー	必要に応じて随時対応する. 希望者は akiyama.manabu.gf@u.tsukuba.ac.jp に連絡を取られたい.
TF・TA	
キーワード	『イザヤ書』.

授業科目名	古典古代学演習 (4A)
科目番号	02DS239
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 応談
担当教員	秋山 学
授業概要	インド古典 (プラーナ) 文献研究.
備考	この科目の開講曜時限は「応談」であるので, 受講希望者は事前に担当教員と連絡を取ることに, 2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	インド学の百科全書と称されるプラーナ文献をめぐり, 研究書を手がかりに原典にアプローチする.
授業計画	『プラーナ文献におけるクリシュナ伝説群』を読み進めながら, プラーナ原典を確認講読する. 第 1 回 The Krisna Cycle in the Puranas, chap.1 (1). 第 2 回 The Krisna Cycle in the Puranas, chap.1 (2). 第 3 回 The Krisna Cycle in the Puranas, chap.1 (3). 第 4 回 The Krisna Cycle in the Puranas, chap.1 (4). 第 5 回 The Krisna Cycle in the Puranas, chap.1 (5). 第 6 回 The Krisna Cycle in the Puranas, chap.1 (6). 第 7 回 The Krisna Cycle in the Puranas, chap.2 (1). 第 8 回 The Krisna Cycle in the Puranas, chap.2 (2). 第 9 回 The Krisna Cycle in the Puranas, chap.2 (3). 第 10 回 The Krisna Cycle in the Puranas, chap.2 (4). 第 11 回 The Krisna Cycle in the Puranas, chap.2 (5). 第 12 回 The Krisna Cycle in the Puranas, chap.2 (6). 第 13 回 The Krisna Cycle in the Puranas, chap.3 (1). 第 14 回 The Krisna Cycle in the Puranas, chap.3 (2). 第 15 回 The Krisna Cycle in the Puranas, chap.3 (3).
成績評価方法	授業期間中の評価と課題の達成度による.
教科書	授業中にコピーして配布する. 1. B.Preciado-Solis, The Krisna Cycle in the Puranas, Delhi, 1984.
参考書	授業中に適宜指示する.
オフィスアワー	必要に応じて随時対応する. 希望者は akiyama.manabu.gf@u.tsukuba.ac.jp に連絡を取られたい.
TF・TA	
キーワード	プラーナ文献.

授業科目名	古典古代学演習 (4B)
科目番号	02DS240
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 応談
担当教員	秋山 学
授業概要	インド古典 (プラーナ) 文献研究 (前期の継続).
備考	この科目の開講曜時限は「応談」であるので, 受講希望者は事前に担当教員と連絡を取ることに, 2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	インド学の百科全書と称されるプラーナ文献をめぐり, 研究書を手がかりに原典にアプローチする. 前期の継続.
授業計画	『プラーナ文献におけるクリシュナ伝説群』を読み進めながら, プラーナ原典を確認講読する. 前期の継続. 第 1 回 The Krisna Cycle in the Puranas, chap.3 (4). 第 2 回 The Krisna Cycle in the Puranas, chap.3 (5). 第 3 回 The Krisna Cycle in the Puranas, chap.3 (6). 第 4 回 The Krisna Cycle in the Puranas, chap.4 (1). 第 5 回 The Krisna Cycle in the Puranas, chap.4 (2). 第 6 回 The Krisna Cycle in the Puranas, chap.4 (3). 第 7 回 The Krisna Cycle in the Puranas, chap.4 (4). 第 8 回 The Krisna Cycle in the Puranas, chap.4 (5). 第 9 回 The Krisna Cycle in the Puranas, chap.4 (6). 第 10 回 The Krisna Cycle in the Puranas, chap.5 (1). 第 11 回 The Krisna Cycle in the Puranas, chap.5 (2). 第 12 回 The Krisna Cycle in the Puranas, chap.5 (3). 第 13 回 The Krisna Cycle in the Puranas, chap.5 (4). 第 14 回 The Krisna Cycle in the Puranas, chap.5 (5). 第 15 回 The Krisna Cycle in the Puranas, chap.5 (6).
成績評価方法	授業期間中の評価と課題の達成度による.
教科書	授業中にコピーして配布する. 1. B.Preciado-Solis, The Krisna Cycle in the Puranas, Delhi, 1984.
参考書	授業中に適宜指示する.
オフィスアワー	必要に応じて随時対応する. 希望者は適宜 akiyama.manabu.gf@u.tsukuba.ac.jp に連絡を取らねたい.
TF・TA	
キーワード	プラーナ文献.

授業科目名	日本文献学研究 (4A)
科目番号	02DS307
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 5
担当教員	吉森 佳奈子
授業概要	文献学の基礎を学ぶ。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	文献学の基礎を身につける。
授業計画	<p>第 1 回文献学概説 (第一回)。 第 2 回文献学概説 (第二回)。 第 3 回文献学演習 (導入)。 第 4 回異文の問題 (第一回)。 第 5 回異文の問題 (第二回)。 第 6 回『湖月抄』について。 第 7 回『湖月抄』以前と以後の問題。 第 8 回出版文化のなかの写本 (第一回)。 第 9 回出版文化のなかの写本 (第二回)。 第 10 回近代書誌の問題。 第 11 回『源氏物語』考証。 第 12 回玉屋本『日本書紀』について。 第 13 回『万水一露』と『湖月抄』。 第 14 回年代記類の伝承。 第 15 回まとめ。</p>
成績評価方法	演習と討議参加による。
教科書	プリント配布。
参考書	そのつど指示する。
オフィスアワー	月 6 限オフィスアワー。電子メールでご連絡のうえ、いらっしゃるのが確実です。 人文社会学系棟 A605 yoshimori.kanako.fn at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	文献学, 注釈史, 出版文化

授業科目名	日本文献学研究 (4B)
科目番号	02DS308
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 5
担当教員	吉森 佳奈子
授業概要	日本の古典籍を調査し、文献学の基礎的な方法と問題のたて方を身につける。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	文献学を学び、各人のテーマを深めるために必要な基礎研究の方法を身につける。
授業計画	<p>第 1 回延宝期概説。</p> <p>第 2 回延宝期に出版された書物について。</p> <p>第 3 回出版と書写による伝承。</p> <p>第 4 回出版文化と異文の問題。</p> <p>第 5 回出版文化と再版の問題 (第一回)。</p> <p>第 6 回出版文化と再版の問題 (第二回)。</p> <p>第 7 回本居宣長の蔵書。</p> <p>第 8 回出版文化の諸問題 (嫁入本の出現)。</p> <p>第 9 回出版文化の諸問題 (重宝記・年代記類基礎)。</p> <p>第 10 回出版文化の諸問題 (重宝記・年代記類がつくったもの)。</p> <p>第 11 回付箋と書入。</p> <p>第 12 回版本と書入の問題。</p> <p>第 13 回近代最初期の出版文化。</p> <p>第 14 回版本と写本。</p> <p>第 15 回まとめ。</p>
成績評価方法	演習と討議参加による。
教科書	プリント配布。
参考書	そのつど指示する。
オフィスアワー	月 6 限オフィスアワー。電子メールでご連絡のうえ、いらっしゃるのが確実です。 人文社会学系棟 A605 yoshimori.kanako.fn at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	文献学, 文学史

授業科目名	和漢比較文学研究 (4A)
科目番号	02DS317
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 4
担当教員	谷口 孝介
授業概要	『白氏文集』巻六閑適詩の注解を行う。日本所在の旧鈔本である金沢文庫本を徹底的に読解し、日本人の『白氏文集』受容の実態を照らし出すことを目指す。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	日本古代中世における漢籍受容の実態をできるだけ具体的にあきらかにすることを主な目的とする。同時に日中にわたる漢文文献の扱い方の習熟を期す。
授業計画	第 1 回講義の目的と方法 第 2 回資料についての概説 第 3 回 266 番詩 1~10 句目の訓読 第 4 回 266 番詩 1~10 句目の本文異同 第 5 回 266 番詩 1~10 句目の注解 第 6 回 266 番詩 1~10 句目の問題点 第 7 回 266 番詩 11~20 句目の訓読 第 8 回 266 番詩 11~20 句目の本文異同 第 9 回 266 番詩 11~20 句目の注解 第 10 回 266 番詩 11~20 句目の問題点 第 11 回 266 番詩 21~32 句目の訓読 第 12 回 266 番詩 21~32 句目の本文異同 第 13 回 266 番詩 21~32 句目の注解 第 14 回 266 番詩 21~32 句目の問題点 第 15 回巻六・閑適詩における旧鈔本本文について
成績評価方法	1 評価方法 分担箇所の注釈報告及び討議参加の態度 2 評価の分配割合 報告 70%、討議参加 30%
教科書	1. 川瀬一馬氏編『金沢文庫本 白氏文集 一』勉誠社、1984 年
参考書	1. 平岡武夫氏・今井清氏校定『白氏文集 第一冊』京都大学人文科学研究所、1971 2. 花房英樹氏『白楽天』清水書院、1990 年
オフィスアワー	谷口孝介 木:3 時限目 人文社会学系棟 A516 taniguchi.kosuke.gm@u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	白居易, 閑適詩, 金沢文庫本, 旧鈔本, 注解

授業科目名	和漢比較文学研究 (4B)
科目番号	02DS318
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 4
担当教員	谷口 孝介
授業概要	『白氏文集』巻六閑適詩の注解を行う。日本所在の旧鈔本である金沢文庫本に基づき、白居易独自の閑適詩の表現を吟味する。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	日本古代中世における漢籍受容の実態をできるだけ具体的にあきらかにすることを主な目的とする。同時に日中にわたる漢文文献の扱い方の習熟を期す。
授業計画	<p>第 1 回 講義の目的と方法</p> <p>第 2 回~第 14 回 264 番詩 (後半) の注解と討議</p> <p>第 15 回 「遊悟真寺詩」に関する問題点のまとめ</p> <p>第 1 回講義の目的と方法</p> <p>第 2 回金沢文庫本『白氏文集』について</p> <p>第 3 回 267 番詩 1~10 句目の訓読</p> <p>第 4 回 267 番詩 1~10 句目の本文異同</p> <p>第 5 回 267 番詩 1~10 句目の注解</p> <p>第 6 回 267 番詩 1~10 句目の問題点</p> <p>第 7 回 267 番詩 11~20 句目の訓読</p> <p>第 8 回 267 番詩 11~20 句目の本文異同</p> <p>第 9 回 267 番詩 11~20 句目の注解</p> <p>第 10 回 267 番詩 11~20 句目の問題点</p> <p>第 11 回 267 番詩 21~32 句目の訓読</p> <p>第 12 回 267 番詩 21~32 句目の本文異同</p> <p>第 13 回 267 番詩 21~32 句目の注解</p> <p>第 14 回 267 番詩 21~32 句目の問題点</p> <p>第 15 回巻六・閑適詩における表現について</p>
成績評価方法	<p>1 評価方法 分担箇所の注釈報告及び討議参加の態度</p> <p>2 評価の分配割合 報告 70%、討議参加 30%</p>
教科書	1. 川瀬一馬氏編『金沢文庫本 白氏文集 一』勉誠社、1984 年
参考書	<p>1. 平岡武夫氏・今井清氏校定『白氏文集 第一冊』京都大学人文科学研究所、1971</p> <p>2. 花房英樹氏『白楽天』清水書院、1990 年</p>
オフィスアワー	<p>谷口孝介 木:3 時限目</p> <p>人文社会学系棟 A516 taniguchi.kosuke.gm@u.tsukuba.ac.jp</p>
TF・TA	
キーワード	白居易, 閑適詩, 金沢文庫本, 旧鈔本

授業科目名	日本古代文学演習 (4A)
科目番号	02DS337
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 2
担当教員	谷口 孝介
授業概要	『古今和歌集』から「寛平御時后宮歌合」歌を取りあげる。なかでも『新撰万葉集』所収歌について和歌を翻案した漢詩との表現の異同を考察する。あわせて詩的言語の注解方法に習熟するとともに『万葉集』から『古今和歌集』に到る古代和歌の表現形成を探求する。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	古代和歌の表現に習熟し、古代文学関連の文献の扱い方を学ぶことを主な目的とする。
授業計画	第 1 回講義の目的と方法 第 2 回 『古今集』 研究案内 第 3 回 『古今集』 12 番歌の校異の検討 第 4 回 『古今集』 12 番歌の注解と討議 第 5 回 『古今集』 12 番歌翻案漢詩の校異の検討 第 6 回 『古今集』 12 番歌翻案漢詩の注解と討議 第 7 回 『古今集』 13 番歌の校異の検討 第 8 回 『古今集』 13 番歌の注解と討議 第 9 回 『古今集』 13 番歌翻案漢詩の校異の検討 第 10 回 『古今集』 13 番歌翻案漢詩の注解と討議 第 11 回 『古今集』 15 番歌の校異の検討 第 12 回 『古今集』 15 番歌の注解と討議 第 13 回 『古今集』 15 番歌翻案漢詩の校異の検討 第 14 回 『古今集』 15 番歌翻案漢詩の注解と討議 第 15 回 初春を表象する歌語の検討
成績評価方法	1 評価方法 分担箇所の注釈報告及び討議参加の態度 2 評価の分配割合 報告 70%、討議参加 30%
教科書	1. とくに定めないが、各自『古今集』の全注本を用意しておくこと。
参考書	1. 久曾神昇氏『古今和歌集成立論』風間書房、1960、1961 年 2. 西下経一氏・滝沢貞夫氏編『古今集校本』笠間書院、1977 年 3. 片桐洋一氏『古今和歌集全評釈』講談社、1998 年 4. 新撰万葉集研究会編『新撰万葉集注釈』巻上 (一)(二) 和泉書院、2005 年・2006 年
オフィスアワー	谷口孝介 木:3 時限目 人文社会学系棟 A516 taniguchi.kosuke.gm@u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	古今和歌集, 寛平御時后宮歌合, 新撰万葉集, 和歌と漢詩, 注解, 万葉集

授業科目名	日本古代文学演習 (4B)
科目番号	02DS338
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 2
担当教員	谷口 孝介
授業概要	『古今和歌集』から「寛平御時后宮歌合」歌を取りあげる。なかでも『新撰万葉集』所収歌について和歌を翻案した漢詩との表現の異同を考察する。とくに諸本の異同に注目することで、古今集歌表現の機微を探求する。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	古代和歌の表現に習熟し、古代文学関連の文献の扱い方を学ぶことを主な目的とする。
授業計画	<p>第 1 回講義の目的と方法</p> <p>第 2 回「寛平御時后宮歌合」と『新撰万葉集』について</p> <p>第 3 回『古今集』46 番歌の校異の検討</p> <p>第 4 回『古今集』46 番歌の注解と討議</p> <p>第 5 回『古今集』46 番歌翻案漢詩の校異の検討</p> <p>第 6 回『古今集』46 番歌翻案漢詩の注解と討議</p> <p>第 7 回『古今集』92 番歌の校異の検討</p> <p>第 8 回『古今集』92 番歌の注解と討議</p> <p>第 9 回『古今集』92 番歌翻案漢詩の校異の検討</p> <p>第 10 回『古今集』92 番歌翻案漢詩の注解と討議</p> <p>第 11 回『古今集』101 番歌の校異の検討</p> <p>第 12 回『古今集』101 番歌の注解と討議</p> <p>第 13 回『古今集』101 番歌翻案漢詩の校異の検討</p> <p>第 14 回『古今集』101 番歌翻案漢詩の注解と討議</p> <p>第 15 回春歌の表現技法の検討</p>
成績評価方法	<p>1 評価方法 分担箇所の注釈報告及び討議参加の態度</p> <p>2 評価の分配割合 報告 70%、討議参加 30%</p>
教科書	1. とくに定めないが、各自『古今集』の全注本を用意しておくこと。
参考書	<p>1. 久曾神昇氏『古今和歌集成立論』風間書房、1960、1961 年</p> <p>2. 西下経一氏・滝沢貞夫氏編『古今集校本』笠間書院、1977 年</p> <p>3. 片桐洋一氏『古今和歌集全評釈』講談社、1998 年</p> <p>4. 新撰万葉集研究会編『新撰万葉集注釈』巻上 (一)(二) 和泉書院、2005 年・2006 年</p>
オフィスアワー	<p>谷口 孝介 木:3 時限目</p> <p>人文社会学系棟 A516 taniguchi.kosuke.gm@u.tsukuba.ac.jp</p>
TF・TA	
キーワード	古今和歌集, 寛平御時后宮歌合, 春歌, 和歌と漢詩, 注解, 万葉集

授業科目名	日本中古文学研究 (4A)
科目番号	02DS347
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 2
担当教員	吉森 佳奈子
授業概要	『源氏物語』をよむ。文学史と出版文化の問題を意識しながら、本文、注釈に注目して考察する。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	『源氏物語』をよむ。『湖月抄』に至るまでの『源氏物語』が生きてきた道すじを、諸本研究、注釈研究から考える。あわせて、問題を自分のものとするために考察を進める技術、知識を得る。
授業計画	<p>第 1 回 『源氏物語』注釈史概説。</p> <p>第 2 回 『源氏釈』の問題。</p> <p>第 3 回 『源氏釈』と『奥入』</p> <p>第 4 回 河内家の『源氏物語』と『紫明抄』(第一回)。</p> <p>第 5 回 河内家の『源氏物語』と『紫明抄』(第二回)。</p> <p>第 6 回 『河海抄』について。</p> <p>第 7 回 『河海抄』と『源氏物語』本文の問題。</p> <p>第 8 回 年代記類と『河海抄』(第一回)。</p> <p>第 9 回 年代記類と『河海抄』(第二回)。</p> <p>第 10 回 『源氏物語』注釈書にかんする演習(東山御文庫本紙背)。</p> <p>第 11 回 『河海抄』と『花鳥余情』のあいだ。</p> <p>第 12 回 『花鳥余情』の問題。</p> <p>第 13 回 『花鳥余情』と一条兼良の年立研究。</p> <p>第 14 回 『源氏物語』注釈史と現在。</p> <p>第 15 回 まとめの討議。</p>
成績評価方法	演習と討議参加による。
教科書	プリント配布。
参考書	そのつど指示する。
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	『源氏物語』, 『河海抄』

授業科目名	日本中古文学研究 (4B)
科目番号	02DS348
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 2
担当教員	吉森 佳奈子
授業概要	『源氏物語』注釈史を学ぶ。古注所引の歴史記述に注目して考える。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	『源氏物語』について、文学史の諸問題を意識し、本文間の異文が生じた経緯を、注釈書、梗概書の記事から考察する。さらに、享受者に、武士、連歌師が関わったことで、この作品の理解がどのように変わっていったかを具体的に考える。
授業計画	<p>『源氏物語』をとりあげる。『源氏物語』以外の平安作品の注釈史とのかかわりに目をやり、『源氏物語』がなりたつ基盤となったものを具体的にあきらかにすることをこころみる。</p> <p>第 1 回資料の調べ方にかんする概説。</p> <p>第 2 回『源氏物語』注釈書とその時代にかんする概説 (古注)。</p> <p>第 3 回『源氏物語』注釈書とその時代にかんする概説 (旧注・新注)。</p> <p>第 4 回先例としての『源氏物語』。</p> <p>第 5 回連歌師と『源氏物語』注釈について。</p> <p>第 6 回類書と『源氏物語』注釈について (第一回)。</p> <p>第 7 回類書と『源氏物語』注釈について (第二回)。</p> <p>第 8 回『源氏物語』梗概書概説。</p> <p>第 9 回『本朝通鑑』所引『源氏物語』注釈書について。</p> <p>第 10 回『源氏大鏡』。</p> <p>第 11 回『塵荊抄』。</p> <p>第 12 回重宝記と『源氏物語』注釈にかんする演習。</p> <p>第 13 回『三教指帰』注釈と『源氏物語』注釈。</p> <p>第 14 回文学史のなかの『源氏物語』。</p> <p>第 15 回まとめの討議。</p>
成績評価方法	演習と討議参加による。
教科書	プリント配布。
参考書	そのつど指示する。
オフィスアワー	月 6 限オフィスアワー。電子メールでご連絡のうえ、いらっしゃるのが確実です。 人文社会学系棟 A605 yoshimori.kanako.fn at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	『源氏物語』, 私撰国史, 梗概書

授業科目名	日本近世文学研究 (4A)
科目番号	02DS387
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 月 4
担当教員	清登 典子
授業概要	『俳諧類船集』に掲載される語句とその連想語とを各自が取り上げ、連想語の背後にある詩的連想について明らかにする。受講生の発表と討議とによって授業を進める。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	俳諧に用いられる言葉の連想語を記した『俳諧類船集』から、各自が一語を取り上げ、その語句から連想される語句がどのような文芸的背景を持つのかについて考察する。詩歌に用いられる語句の江戸時代における特色について理解を深める。
授業計画	それぞれの詩語の持つ連想語の背景にある詩的伝統を明らかにする。それぞれの詩語についての担当者を決定し、発表者の発表と討議とによって授業を行う。 第 1 回授業の進め方について説明し、担当語句について決定する。 第 2 回日本詩歌の流れについて概説し、俳諧で用いられる語の特色について説明する。 第 3 回各語の担当者による発表と 出席者による討議によって授業を進める。 第 4 回同 上 第 5 回同 上 第 6 回同 上 第 7 回同 上 第 8 回同 上 第 9 回同 上 第 10 回同 上 第 11 回同 上 第 12 回同 上 第 13 回同 上 第 14 回同 上 第 15 回授業のまとめ
成績評価方法	授業への出席状況、発表担当時の取り組み状況、発表内容などを総合して成績をつける。
教科書	テキストは『俳諧類船集』のコピーを用いる。
参考書	授業時に適宜指示する。
オフィスアワー	火 3 (要予約) 人文社会学系棟 A604 内線 4140 kiyoto.noriko.fn at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	和歌、物語、謡曲、草子類、俳諧、詩語の伝統

授業科目名	日本近世文学研究 (4B)
科目番号	02DS388
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 月 4
担当教員	清登 典子
授業概要	『俳諧類船集』に掲載される語句とその連想語とを各自が取り上げ、連想語の背後にある詩的伝統について明らかにする。受講生の発表と討議とによって授業を進める。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	『俳諧類船集』に掲載される語句とその連想語とのうち、季節の語 (季題・季語) を各自が取り上げ、連想語の背後にある詩的伝統について明らかにする。受講生の発表と討議とによって授業を進める。
授業計画	<p>発表者の担当する語句とその連想語についての調査内容発表と受講生全体での討議とによって授業を進める。</p> <p>第 1 回授業の目的、発表の手順、資料の作成の仕方などについて説明する。</p> <p>第 2 回日本の詩歌の歴史と俳諧の特色について説明する。</p> <p>第 3 回発表者がおのおの担当する季節の語句とその連想語について調査した結果を発表し、それについて受講生全体で討議をする。</p> <p>第 4 回同 上</p> <p>第 5 回同 上</p> <p>第 6 回同 上</p> <p>第 7 回同 上</p> <p>第 8 回同 上</p> <p>第 9 回同 上</p> <p>第 10 回同 上</p> <p>第 11 回同 上</p> <p>第 12 回同 上</p> <p>第 13 回同 上</p> <p>第 14 回同 上</p> <p>第 15 回これまでの授業のまとめを行う。</p>
成績評価方法	
教科書	テキストは『俳諧類船集』を用いる。
参考書	授業の中で、適宜指示する。
オフィスアワー	火 3 (要予約) 人文社会学系棟 A604 内線 4140 kiyoto.noriko.fn at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	和歌, 俳諧, 詩的連想

授業科目名	日本近世文学演習 (4A)
科目番号	02DS397
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 月 5
担当教員	清登 典子
授業概要	与謝蕪村の新出句集『夜半亭蕪村句集』中に見える新出句のうち、冬の部の句を取り上げて検討を加え、蕪村俳諧における言葉の用い方や技法などの特色について明らかにする。受講生の発表と討議とによって授業を進める。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	江戸中期の俳人、与謝蕪村の新出句集『夜半亭蕪村句集』中の新出句を取り上げて検討を加え、蕪村俳諧の季語や言葉の用い方や技法などについて明らかにする。受講生の発表と討議とによって授業を進める。
授業計画	<p>担当部分についての発表者の発表と、受講生全体による討議とによって授業を進める。</p> <p>第 1 回発表者の分担部分について決定し、調査方法、発表資料の作成方法などについて説明する。</p> <p>第 2 回日本の詩歌史における蕪村の位置づけについて概説する。</p> <p>第 3 回発表者の担当部分についての発表と、受講生全体による討議を行う。</p> <p>第 4 回同 上</p> <p>第 5 回同 上</p> <p>第 6 回同 上</p> <p>第 7 回同 上</p> <p>第 8 回同 上</p> <p>第 9 回同 上</p> <p>第 10 回同 上</p> <p>第 11 回同 上</p> <p>第 12 回同 上</p> <p>第 13 回同 上</p> <p>第 14 回同 上</p> <p>第 15 回授業のまとめを行う</p>
成績評価方法	出席状況、発表の内容、討議への参加状況を総合して評価する。
教科書	授業時に指示する。
参考書	授業時に適宜指示する。
オフィスアワー	火 3 (要予約) 人文社会学系棟 A604 内線 4140 kiyoto.noriko.fn at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	蕪村, 新出句, 発句解釈

授業科目名	日本近世文学演習 (4B)
科目番号	02DS398
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 月 5
担当教員	清登 典子
授業概要	与謝蕪村の新出句集『夜半亭蕪村句集』中の新出句のうち、春の句を取り上げて検討を加え、そこに見られる俳諧技法や美意識を明らかにする。受講生の発表と討議とによって授業を進める。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	江戸中期の俳人、与謝蕪村の新出句集『夜半亭蕪村句集』中の新出句のうち、春句を取り上げて、検討を加え、季語や言葉の使い方、技法の点から蕪村俳諧の特色を明らかにする。
授業計画	<p>取り上げる作品について、発表担当者を決定し、その発表と受講生全員による討議によって授業を進めていく。</p> <p>第 1 回発表担当者の決定、調査の方法、発表のやり方、資料作成の仕方などについて説明する。</p> <p>第 2 回俳諧史における蕪村の位置づけやテキストとする作品について説明する。</p> <p>第 3 回発表担当者による発表と、それに対する受講生全体の討議を行う。</p> <p>第 4 回 同 上</p> <p>第 5 回 同 上</p> <p>第 6 回 同 上</p> <p>第 7 回 同 上</p> <p>第 8 回 同 上</p> <p>第 9 回 同 上</p> <p>第 10 回 同 上</p> <p>第 11 回 同 上</p> <p>第 12 回 同 上</p> <p>第 13 回 同 上</p> <p>第 14 回 同 上</p> <p>第 15 回 授業のまとめを行う。</p>
成績評価方法	出席状況、発表内容、討議への参加状況を総合して評価する。
教科書	授業時に指示する。
参考書	授業時に適宜指示する。
オフィスアワー	火 3 (要予約) 人文社会学系棟 A604 内線 4140 kiyoto.noriko.fn at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	蕪村, 発句, 新出句

授業科目名	日本近代文学研究 (4A)
科目番号	02DS407
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 4
担当教員	馬場 美佳
授業概要	明治・大正期を中心に、日本近代文学研究の基礎力・応用力を涵養する。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	日本近代文学研究の基礎力・応用力を涵養する。
授業計画	夏目漱石『永日小品』(明治 41 年)について、語釈・注釈・解釈を行っていく。 第 1 回夏目漱石『永日小品』について。 第 2 回「小品」という概念について。 第 3 回第 3 回～第 15 回 1 回 1 作をとりあげて語釈・注釈・解釈を行う。
成績評価方法	発表内容および出席態度によって評価する。
教科書	テキストは『四篇』(明治 43 年)を用いる。随時『朝日新聞』初出を参照する。
参考書	1. 漱石全集 2. 朝日新聞データベース
オフィスアワー	木曜日 6 時限
TF・TA	
キーワード	日本近代文学, 明治文学, 夏目漱石, 小品

授業科目名	日本近代文学研究 (4B)
科目番号	02DS408
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 4
担当教員	馬場 美佳
授業概要	明治・大正期を中心に、日本近代文学研究の基礎力・応用力を涵養する。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	明治・大正期を中心に、日本近代文学研究の基礎力・応用力を涵養する。
授業計画	夏目漱石『永日小品』(明治 41 年)について、語釈・注釈・解釈を行っていく。 第 1 回第 1 回～第 15 回 1 回 1 作をとりあげて語釈・注釈・解釈を行う
成績評価方法	発表内容および出席態度によって評価する。
教科書	テキストは『四篇』(明治 43 年)を用いる。随時『朝日新聞』初出を参照する。
参考書	1. 漱石全集 2. 朝日新聞データベース
オフィスアワー	木曜日 6 時限
TF・TA	
キーワード	日本近代文学, 明治文学, 夏目漱石, 小品

授業科目名	日本近代文学演習 (4A)
科目番号	02DS417
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 6
担当教員	馬場 美佳
授業概要	各自の研究計画に従って作品を選び研究発表を行こととする。 作品解釈を通して研究方法および論文のテーマを明確にすることを旨とする。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	各自の研究計画に従って作品を選び研究発表を行こととする。 作品解釈を通して研究方法および論文のテーマを明確にすることを旨とする。
授業計画	第 1 回導入。演習担当等について。 第 2 回第 2 回 ~ 15 回 個人発表
成績評価方法	受講者自身の発表内容と各回演習への参加態度で評価する。
教科書	担当回ごとに取り上げるテキストを各自で準備し、事前に配布する。
参考書	
オフィスアワー	木曜日 6 時限
TF・TA	
キーワード	研究テーマ, 作品論, オリジナリティ

授業科目名	日本近代文学演習 (4B)
科目番号	02DS418
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 6
担当教員	馬場 美佳
授業概要	各自の研究計画に従って作品を選び研究発表を行こととする。 作品解釈を通して研究方法および論文のテーマを明確にすることを目指す。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	各自の研究計画に従って作品を選び研究発表を行こととする。 作品解釈を通して研究方法および論文のテーマを明確にすることを目指す。
授業計画	第 1 回導入。演習担当等について。 第 2 回第 2 回 ~ 15 回 個人発表
成績評価方法	受講者自身の発表内容と各回演習への参加態度で評価する。
教科書	担当回ごとに取り上げるテキストを各自で準備し、事前に配布する。
参考書	
オフィスアワー	木曜日 6 時限
TF・TA	
キーワード	研究テーマ, 作品論, オリジナリティ

授業科目名	イギリス文学史研究 (4A)
科目番号	02DS507
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 6
担当教員	佐野 隆弥
授業概要	初期近代戯曲研究。シェイクスピアの中期祝祭喜劇を中心に、基礎的読解と議論を行う。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	この授業は,(1) シェイクスピアを中心としたエリザベス朝演劇に関する読解の基本的技能の習得,(2) 先行研究のサーヴェイカの構築,(3) 論文作成技術の習得, の 3 点を到達目標としている。具体的には,OED 等に丹念に当たりながらシェイクスピア戯曲の意味を特定する作業を行う。また, エリザベス朝演劇研究には, すでに膨大な量の研究の蓄積があり, そのエッセンスはアーデン版の脚注などに反映されているが, こうした脚注を正確に読み取ることも, かなりの力量が要求される。本授業では, この 2 点を軸にシェイクスピアおよび同時代の戯曲を読み解く能力を涵養する。
授業計画	第 1 回イントロダクション 第 2 回 As You Like It 1 幕 1 場前半部の講読および議論 第 3 回 As You Like It 1 幕 1 場後半部の講読および議論 第 4 回 As You Like It 1 幕 2 場前半部の講読および議論 第 5 回 As You Like It 1 幕 2 場中盤部の講読および議論 第 6 回 As You Like It 1 幕 2 場後半部の講読および議論 第 7 回 As You Like It 1 幕 3 場前半部の講読および議論 第 8 回 As You Like It 1 幕 3 場後半部および 2 幕 1 番の講読および議論 第 9 回 As You Like It 2 幕 2 場および 2 幕 3 番の講読および議論 第 10 回 As You Like It 2 幕 4 場の講読および議論 第 11 回 As You Like It 2 幕 5 場, 2 幕 6 番および 2 幕 7 場前半部の講読および議論 第 12 回 As You Like It 2 幕 7 場後半部の講読および議論 第 13 回 As You Like It 3 幕 1 場および 3 幕 2 場前半部の講読および議論 第 14 回 As You Like It 3 幕 2 場中盤部の講読および議論 第 15 回 As You Like It 3 幕 2 場後半部の講読および議論ならびにまとめ
成績評価方法	(1) 授業への貢献度 (準備の度合い, 授業中の発表成績, 授業時の活動状況, 授業態度等) を 40% の割合で, また (2) 学期末試験を 60% の割合で評価する。
教科書	1. Juliet Dusinberre, ed.,,As You Like It, The Arden Shakespeare, Third Series(London: Bloomsbury, 2006). ISBN: 978-1-904271-22-2
参考書	1. William Empson,Some Versions of Pastoral (Chatto & Windus, 1935) 2. C. L. Barber,Shakespeare's Festive Comedy (Princeton UP, 1959) 3. Louis Adrian Montrose,"Of Gentlemen and Shepherds: The Politics of Elizabethan Pastoral Form," ELH 50(1983)
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	エリザベス朝, シェイクスピア, 喜劇

授業科目名	イギリス文学史研究 (4B)
科目番号	02DS508
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 6
担当教員	佐野 隆弥
授業概要	初期近代戯曲研究。シェイクスピアの中期祝祭喜劇を中心に、分析的読解と論文作成を行う。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	この授業は、(1) シェイクスピアを中心としたエリザベス朝演劇に関する読解の発展的技術の習得、(2) 先行研究のサーヴェイカの構築、(3) 論文作成技術の習得、の 3 点を到達目標としている。具体的には、OED 等に丹念に当たりながらシェイクスピア戯曲の意味を特定する作業を行う。また、エリザベス朝演劇研究には、すでに膨大な量の研究の蓄積があり、そのエッセンスはアーデン版の脚注などに反映されているが、こうした脚注を正確に読み取ることも、かなりの力量が要求される。本授業では、この 2 点を軸にシェイクスピアおよび同時代の戯曲を読み解く能力を涵養した上で、オリジナリティのある論文作成のスキルを習得させる。
授業計画	第 1 回 As You Like It 3 幕 3 場の講読および議論 第 2 回 As You Like It 3 幕 4 場および 3 幕 5 場前半部の講読および議論 第 3 回 As You Like It 3 幕 5 場後半部の講読および議論 第 4 回 As You Like It 4 幕 1 場前半部の講読および議論 第 5 回 As You Like It 4 幕 1 場後半部の講読および議論 第 6 回 As You Like It 4 幕 2 場および 4 幕 3 場前半部の講読および議論 第 7 回 As You Like It 4 幕 3 場後半部の講読および議論 第 8 回 As You Like It 5 幕 1 場および 5 幕 2 場前半部の講読および議論 第 9 回 As You Like It 5 幕 2 場後半部および 5 幕 3 場の講読および議論 第 10 回 As You Like It 5 幕 4 場前半部の講読および議論 第 11 回 As You Like It 5 幕 4 場後半部の講読および議論 第 12 回 As You Like It に関する文献講読 (1) 第 13 回 As You Like It に関する文献講読 (2) 第 14 回 As You Like It に関する文献講読 (3) 第 15 回 As You Like It に関する論文指導ならびにまとめ
成績評価方法	(1) 授業への貢献度 (準備の度合い、授業中の発表成績、授業時の活動状況、授業態度等) を 30% の割合で、また (2) 学期末レポートを 70% の割合で評価する。
教科書	1. Juliet Dusinberre, ed., „As You Like It, The Arden Shakespeare, Third Series(London: Bloomsbury, 2006). ISBN: 978-1-904271-22-2
参考書	1. William Empson, „Some Versions of Pastoral (Chatto & Windus, 1935) 2. C. L. Barber, „Shakespeare’s Festive Comedy (Princeton UP, 1959) 3. Louis Adrian Montrose, „Of Gentlemen and Shepherds: The Politics of Elizabethan Pastoral Form,“ ELH 50(1983)
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	エリザベス朝, シェイクスピア, 喜劇

授業科目名	イギリス文学史演習 (4A)
科目番号	02DS517
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 水 2
担当教員	佐野 隆弥
授業概要	初期近代英詩研究。エドモンド・スペンサーの The Faerie Queene 第一巻をテキストに、基礎的読解と議論を行う。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	この授業は、(1) エドモンド・スペンサーを中心としたエリザベス朝英詩に関する読解の基本的技能の習得、(2) 先行研究のサーヴェイカの構築、(3) 論文作成技術の習得、の 3 点を到達目標としている。具体的には、OED 等に丹念に当たりながらスペンサーの英詩の意味を特定する作業を行う。また、16 世紀の英詩研究には、すでに膨大な量の研究の蓄積があり、そのエッセンスは様々なエディションの脚注などに反映されているが、こうした脚注を正確に読み取ることも、かなりの力量が要求される。本授業では、この 2 点を軸にスペンサーおよび同時代の英詩を読み解く能力を涵養する。
授業計画	<p>第 1 回イントロダクション</p> <p>第 2 回 The Faerie Queene, Book I, Canto 1 前半部の読解と議論</p> <p>第 3 回 The Faerie Queene, Book I, Canto 1 後半部および Canto 2 前半部の読解と議論</p> <p>第 4 回 The Faerie Queene, Book I, Canto 2 後半部の読解と議論</p> <p>第 5 回 The Faerie Queene, Book I, Canto 3 前半部の読解と議論</p> <p>第 6 回 The Faerie Queene, Book I, Canto 3 後半部および Canto 4 前半部の読解と議論</p> <p>第 7 回 The Faerie Queene, Book I, Canto 4 後半部の読解と議論</p> <p>第 8 回 The Faerie Queene, Book I, Canto 5 前半部の読解と議論</p> <p>第 9 回 The Faerie Queene, Book I, Canto 5 後半部および Canto 6 前半部の読解と議論</p> <p>第 10 回 The Faerie Queene, Book I, Canto 6 後半部の読解と議論</p> <p>第 11 回 The Faerie Queene, Book I, Canto 7 前半部の読解と議論</p> <p>第 12 回 The Faerie Queene, Book I, Canto 7 後半部の読解と議論</p> <p>第 13 回 The Faerie Queene に関する文献講読 (1)</p> <p>第 14 回 The Faerie Queene に関する文献講読 (2)</p> <p>第 15 回 The Faerie Queene に関する文献講読 (3) ならびにまとめ</p>
成績評価方法	(1) 授業への貢献度 (準備の度合い、授業中の発表成績、授業時の活動状況、授業態度等) を 40% の割合で、また (2) 学期末試験を 60% の割合で評価する。
教科書	1. A. C. Hamilton et al. , eds., Spenser: The Faerie Queene (Longman, 2001) ISBN-13: 978-0582099517
参考書	<p>1. Alastair D. S. Fowler, Spenser and the Numbers of Time (Barnes and Noble, 1963)</p> <p>2. Stephen Greenblatt, Renaissance Self-Fashioning: From More to Shakespeare (U of Chicago P, 1980)</p> <p>3. Kenneth Gross, Spenserian Poetics: Idolatry, Iconoclasm & Magic (Cornell UP, 1985)</p>

オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	スペンサー, 英詩, エリザベス朝

授業科目名	イギリス文学史演習 (4B)
科目番号	02DS518
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 水 2
担当教員	佐野 隆弥
授業概要	初期近代英詩研究。エドモンド・スペンサーの <i>The Faerie Queene</i> 第一巻をテキストに、分析的読解と論文作成を行う。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	この授業は、(1) エドモンド・スペンサーを中心としたエリザベス朝英詩に関する読解の基本的技能の習得、(2) 先行研究のサーヴェイカの構築、(3) 論文作成技術の習得、の 3 点を到達目標としている。具体的には、OED 等に丹念に当たりながらスペンサーの英詩の意味を特定する作業を行う。また、16 世紀の英詩研究には、すでに膨大な量の研究の蓄積があり、そのエッセンスは様々なエディションの脚注などに反映されているが、こうした脚注を正確に読み取ることも、かなりの力量が要求される。本授業では、この 2 点を軸にスペンサーおよび同時代の英詩を読み解く能力を涵養した上で、オリジナリティのある論文作成のスキルを習得させる。
授業計画	第 1 回 <i>The Faerie Queene</i> , Book I, Canto 8 前半部の読解と議論 第 2 回 <i>The Faerie Queene</i> , Book I, Canto 8 後半部の読解と議論 第 3 回 <i>The Faerie Queene</i> , Book I, Canto 9 前半部の読解と議論 第 4 回 <i>The Faerie Queene</i> , Book I, Canto 9 後半部の読解と議論 第 5 回 <i>The Faerie Queene</i> , Book I, Canto 10 前半部の読解と議論 第 6 回 <i>The Faerie Queene</i> , Book I, Canto 10 中盤部の読解と議論 第 7 回 <i>The Faerie Queene</i> , Book I, Canto 10 後半部の読解と議論 第 8 回 <i>The Faerie Queene</i> , Book I, Canto 11 前半部の読解と議論 第 9 回 <i>The Faerie Queene</i> , Book I, Canto 11 後半部の読解と議論 第 10 回 <i>The Faerie Queene</i> , Book I, Canto 12 前半部の読解と議論 第 11 回 <i>The Faerie Queene</i> , Book I, Canto 12 後半部の読解と議論 第 12 回 <i>The Faerie Queene</i> に関する文献講読 (1) 第 13 回 <i>The Faerie Queene</i> に関する文献講読 (2) 第 14 回 <i>The Faerie Queene</i> に関する文献講読 (3) 第 15 回 <i>The Faerie Queene</i> に関する論文指導ならびにまとめ
成績評価方法	(1) 授業への貢献度 (準備の度合い、授業中の発表成績、授業時の活動状況、授業態度等) を 40% の割合で、また (2) 学期末試験を 60% の割合で評価する。
教科書	1. A. C. Hamilton et al. , eds., <i>Spenser: The Faerie Queene</i> (Longman, 2001) ISBN-13: 978-0582099517
参考書	1. Alastair D. S. Fowler, <i>Spenser and the Numbers of Time</i> (Barnes and Noble, 1963) 2. Stephen Greenblatt, <i>Renaissance Self-Fashioning: From More to Shakespeare</i> (U of Chicago P, 1980) 3. Kenneth Gross, <i>Spenserian Poetics: Idolatry, Iconoclasm & Magic</i> (Cornell UP, 1985)

オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	スペンサー, 英詩, エリザベス朝

授業科目名	アメリカ文学特殊研究 (4A)
科目番号	02DS647
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 金 5
担当教員	ラフォンテーヌ アンドレ
授業概要	Film melodrama can be seen as an expressive mode, a genre and an ideological form. In this course, we will discuss melodrama as a culturally situated genre and expressive mode. Melodrama incorporates a variety of stylistics and aesthetic conventions and directors have exploited those for various effects. As it relies heavily on emotions, pathos and sensationalism, melodrama has been criticized as “low brow” and relegated to the “woman’s genre”. Recent theorists, however, point out melodrama’s intertwinement with discourse of gender, race, nationalism and modernity.
備考	2019 年度より 4 年おき開講。 英語で授業。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	In this seminar, students will become acquainted with a cross section of classic and contemporary Canadian writing. Drawing from a literary anthology selected by the students and instructor, we will discuss themes related to the Canadian national identity, such as the immigrant experience, the land as wilderness, and First Nations’ mythology. Some of the writers to be included in this seminar include Michael Ondaatje, Margaret Atwood and W.P. Kinsella.
授業計画	<p>Week 1: Introduction</p> <p>Week 2: Canadian Literature: Writers and Themes</p> <p>Week 3: Overview of Theme 1: Immigrant experience</p> <p>Week 4: Selected Poems of Michael Ondaatje and Margaret Atwood</p> <p>Week 5: Student led seminar on immigrant experience in selected Canadian texts</p> <p>Week 6: Wrap up class on Theme 1</p> <p>Week 7: Overview of Theme 2: The land as wilderness</p> <p>Week 8: Excerpt from Margaret Atwood’s novel “Surfacing”</p> <p>Week 9: Student led seminar on land as wilderness in selected Canadian texts</p> <p>Week 10: Wrap up class on Theme 2</p> <p>Week 11: Overview of Theme 3: First Nations’ mythology</p> <p>Week 12: Short stories by W.P. Kinsella Part I</p> <p>Week 13: Short stories by W.P. Kinsella Part II</p> <p>Week 14: Student led seminar on First Nations’ mythology in selected Canadian texts</p> <p>Week 15: Wrap up class on Theme 3</p>

成績評価方法	Students will be assessed on their seminar presentations, a final paper, and on their attendance and participation.
教科書	To be assigned at the first class
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	アメリカ文学特殊研究 (4B)
科目番号	02DS648
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 金 5
担当教員	ラフォンテーヌ アンドレ
授業概要	This seminar approaches the writers and filmmakers working in Noir films in Hollywood from the 1930s to the late 1950s and beyond. We will examine the stylistic and thematic preoccupations of the genre, its roots in German Expressionism, as well as the influence of WWII, the Great Depression, and the detective novel. Finally, we will glance at the genre 's repercussions beyond Hollywood, notably in French, Italian, and Japanese cinema.
備考	2019 年度より 4 年おき開講。 英語で授業。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	In this seminar, students will become acquainted with a cross section of classic and contemporary Canadian writing. Drawing from a literary anthology selected by the students and instructor, we will discuss themes related to the Canadian national identity, such as the multicultural mosaic, English and French Canada, and small town life. Some of the writers to be included in this seminar include Yann Martel, Leonard Cohen and Alice Munro.
授業計画	<p>Week 1: Introduction</p> <p>Week 2: Canadian Literature: Writers and Themes</p> <p>Week 3: Overview of Theme 1: Multicultural Mosaic</p> <p>Week 4: Excerpt from Yann Martel 's " Life of Pi "</p> <p>Week 5: Student led seminar on the Multicultural Mosaic in selected Canadian texts</p> <p>Week 6: Wrap up class on Theme 1</p> <p>Week 7: Overview of Theme 2: English and French Canada</p> <p>Week 8: Selected Poems of Leonard Cohen</p> <p>Week 9: Student led seminar on English and French Canada in selected Canadian texts</p> <p>Week 10: Wrap up class on Theme 2</p> <p>Week 11: Overview of Theme 3: Small Town Life</p> <p>Week 12: Short stories by Alice Munro</p> <p>Week 13: Short stories by Stephen Leacock</p> <p>Week 14: Student led seminar on Small Town Life in selected Canadian texts</p> <p>Week 15: Wrap up class on Theme 3</p>

成績評価方法	Students will be assessed on their seminar presentations, a final paper, and on their attendance and participation.
教科書	To be assigned at the first class
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	フランス文学史研究 (4A)
科目番号	02DS707
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 4
担当教員	増尾 弘美
授業概要	19 世紀末から 20 世紀初頭にかけてのフランス音楽界の動向を見極めつつ、プルーストの作品を読んで考察する。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	プルーストの長編小説『失われた時を求めて』において音楽がどのように扱われているかを探る。
授業計画	プルーストと音楽についての研究論文を読みつつ、原典にあたって精査する。
成績評価方法	平常点により評価する。
教科書	1. Cecile Leblanc, Proust écrivain de la musique, Brepols, 2017
参考書	1. bulletin d'informations proustiennes
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	プルースト, 音楽, ワーグナー, ベートーヴェン, セザール・フランク

授業科目名	フランス文学史研究 (4B)
科目番号	02DS708
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 4
担当教員	増尾 弘美
授業概要	19 世紀末から 20 世紀初頭にかけてのフランス音楽界の動向を見極めつつ、ブルーストに関する論文を読んで考察する。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	ブルーストの長篇小説『失われた時を求めて』において、音楽が作品構成にどのように寄与しているかを探る。
授業計画	ブルーストと音楽についての研究論文を読みつつ、関連著作を参照しながら、原典にあたって精査する。
成績評価方法	平常点により評価する。
教科書	1. Cecile Leblanc, Proust ecrivain de la musique, Brepols, 2017
参考書	1. bulletin d'informations proustiennes
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	ブルースト, ワーグナー, ベートーヴェン, セザール・フランク

授業科目名	フランス文学研究 I(4A)
科目番号	02DS717
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 水 3
担当教員	小川 美登里
授業概要	フランス文学を中心とするテキストを精読し、分析、批評の能力を養う。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	フランス文学のなかで、二十世紀以降のテキストに焦点を当てて読解作業を行う。そして、テキストから様々な要素を読み取り、それらを整理する能力を養うと同時に、テキストから導き出される問題を深め、作家の思想と照らし合わせる作業を行う。
授業計画	小説の在り方に疑問を投じた 1960 年代のヌーヴォーロマン以前の作家を扱い、テキストから表出されるさまざまな問題について議論する。扱うテキストは受講者と相談のうえ決定する。
成績評価方法	出席と授業態度を総合的に評価する。ただし、フランス語読解の授業ではなく、テキスト分析を中心に据えた授業であるため、予め配布されるテキストの予習は必ず行うこと。
教科書	授業で扱うテキストについては、適宜指示する。
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	フランス語, フランス文学。

授業科目名	フランス文学研究 I(4B)
科目番号	02DS718
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 C 集中
担当教員	小川 美登里
授業概要	フランス文学を中心としたテキストを読解し、同時代の作品や作家の他作品と比較しながら、分析する能力を養う。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	フランス文学のなかで、おもに二十世紀以降のテキストの精読をとおして、テキストからさまざまな要素を抽出し、それらを検討し、分析する能力を養う。テキストを精確かつ厳密に読み解くと同時に、そこにあらわれるテーマやモチーフを作家の思想全体と結びつける技術を身につける。
授業計画	パスカル・キニャール作品を中心に、小説、論説、物語、批評など文学ジャンルの問題について考えるとともに、文学・言語・音楽・イメージの関係性についても考える。
成績評価方法	出席と授業態度を総合的に評価する。ただし、この授業はテキスト分析を中心に行うため、受講者には予め配布されたテキストを熟読することが求められる。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	フランス語, フランス文学。

授業科目名	フランス文学研究 (4A)
科目番号	02DS727
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 3
担当教員	増尾 弘美
授業概要	受講者の研究内容に沿って、作品を熟読し考察する。研究発表も適宜行う。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	受講者の研究内容に沿って、関連する文学作品を熟読し、考察する。
授業計画	開講時に受講者と話し合っ、文学作品を選定する。その後は徹底して読み込む。研究発表も適宜行う。
成績評価方法	平常点により評価する。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	フランス文学研究 II(4B)
科目番号	02DS728
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 3
担当教員	増尾 弘美
授業概要	受講者の研究内容に沿って、研究書を読み考察する。研究発表も適宜行う。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	受講者の研究内容に沿って、関連する研究書、参考文献を熟読し、考察する。
授業計画	開講時に受講者と話し合っ、研究書、参考文献を選定する。その後は徹底して読み込む。研究発表も適宜行う。
成績評価方法	平常点により評価する。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	フランス文学特殊研究 (4A)
科目番号	02DS737
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 水 1
担当教員	小川 美登里
授業概要	作品読解をとおして、フランス文学と関連するテーマ系 (ジェンダーや哲学、思想、芸術、文化など) を導き出し、分析する。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	批評・分析をフランス語で行う能力を身につける
授業計画	文学作品や文学ジャンルについての批評文を読み、批評の方法を身につける。扱うテキストは適宜、決定する。
成績評価方法	平常点により評価。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	フランス現代文学, 批評

授業科目名	フランス文学特殊研究 (4B)
科目番号	02DS738
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 C 集中
担当教員	小川 美登里
授業概要	フランス文学を中心としたテキスト読解をとおして、作品から導き出される諸領域との関連性について考える。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	フランス現代の文学作品を精読し、諸テーマと関連付けながら分析する能力を身につける
授業計画	現代文学の作品を読み、そこから主要テーマを引き出して、他のテーマと関連付けながら分析を組み立てる方法論を養う
成績評価方法	平常点により評価。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	現代文学, 批評

授業科目名	ドイツ文学研究 II(4A)
科目番号	02DS817
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 4
担当教員	ヘーゼルハウス, ヘラト
授業概要	"You Must Change Your Life" Introduction to Peter Sloterdijk 's Philosophy of Resiliency
備考	2019 年度より 4 年おき開講。 英語で授業。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	You Must Change Your Life " Introduction to Peter Sloterdijk 's Philosophy of Resiliency This seminar is based on the philosophy of resiliency of the contemporary German philosopher Peter Sloterdijk and focuses on his book " You Must Change Your Life " published in 2009 (German original). We will read parts of the English translation together and discuss the argument and compare it with other similar approaches in philosophy, Global Studies and Environmental Studies.
授業計画	The seminar will start with an introduction to Peter Sloterdijk 's work. Parts of the English translation, in particular, the introduction and final chapter will be read together in class because of their complicated philosophical thought and intriguing language. The book will be compared and discussed in relationship with other similar philosophical texts. The focus point of the discussions in the seminar will be on the construction of a philosophy of resiliency.
成績評価方法	active participation, presentation
教科書	Basic text: Peter Sloterdijk: You Must Change Your Life (Polity Press 2013). Further reading will be announced in the seminar.
参考書	
オフィスアワー	担当:ヘーゼルハウス、ヘラト オフィスアワー:月 5 (15:15-) (人社棟 A510) (オフィスアワー事前にメールにて連絡のこと) E-Mail: heselhaus.herrad.fw@u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	Peter Sloterdijk, philosophy of resiliency

授業科目名	ドイツ文学研究 II(4B)
科目番号	02DS818
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 4
担当教員	ヘーゼルハウス, ヘラト
授業概要	Radical Thinking: Peter Sloterdijk 's Contribution to Literature and Philosophy
備考	2019 年度より 4 年おき開講。 英語で授業。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	Radical Thinking: Peter Sloterdijk 's Contribution to Literature and Philosophy This seminar discusses Peter Sloterdijk 's contribution to philosophy and his specific way of radical thinking. It will compare his approach to other theories of radical and critical thinking and apply his thought to various global (and local) problems, such as Fukushima and Global Warming, civil war and religious conflicts.
授業計画	Again, the seminar will focus on Peter Sloterdijk 's book " You Must Change Your Life ", but this time the focus will be on radical and critical thinking. Sloterdijk 's argumentative strategies, philosophical conceptualizations and traditional contexts will be scrutinized by reading relevant passages of his book. These will then be compared to other similar approaches in philosophy.
成績評価方法	active participation, presentation
教科書	Basic text: Peter Sloterdijk: You Must Change Your Life (Polity Press 2013). Further reading will be announced in the seminar.
参考書	
オフィスアワー	担当:ヘーゼルハウス、ヘラト オフィスアワー:火 3 (12:15-)(人社棟 A510) (オフィスアワー事前にメールにて連絡のこと) E-Mail: heselhaus.herrad.fw@u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	Peter Sloterdijk, Radical Thinking

授業科目名	ドイツ文学特講 (4A)
科目番号	02DS837
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 月 5
担当教員	ヘーゼルハウス, ヘラト
授業概要	Probleme der Narratologie im 20. Jahrhundert
備考	2019 年度より 4 年おき開講。 ドイツ語で授業。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	Probleme der Narratologie im 20. Jahrhundert Das Seminar führt ein in die Probleme der Narratologie im 20. Jahrhundert und stellt verschiedene einschlägige Theorieansätze vor. Im Mittelpunkt des Seminars wird die Auseinandersetzung mit Franz Kafkas narratologischen Verfahrensweisen stehen. Dazu werden kleinere Texte von Kafka gelesen und Interpretationen zu seinem Werk rezipiert.
授業計画	Der erste Teil des Seminars wird aus theoretischen Erörterungen grundlegender narratologischer Konzeptionen bestehen. Im zweiten Teil werden verschiedene narratologische Interpretationen zu Kafkas Werk gelesen und auf ihre Argumentationsstruktur und Überzeugungskraft hin untersucht. Die Teilnehmer haben die Möglichkeit, ihre eigenen narratologischen Konzeptionen und Interpretationen im Seminar vorzustellen.
成績評価方法	aktive Teilnahme am Unterricht, Referat und Hausarbeit, kleinere Uebungen
教科書	wird im Unterricht bekannt gegeben
参考書	
オフィスアワー	担当:ヘーゼルハウス、ヘラト オフィスアワー:月 5 (15:15-)(人社棟 A510) (オフィスアワー事前にメールにて連絡のこと) E-Mail: heselhaus.herrad.fw@u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	Narratologie, Franz Kafka

授業科目名	ドイツ文学特講 (4B)
科目番号	02DS838
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 3
担当教員	ヘーゼルハウス, ヘラト
授業概要	Das Abfassen wissenschaftlicher Arbeiten
備考	2019 年度より 4 年おき開講。 ドイツ語で授業。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	Das Abfassen wissenschaftlicher Arbeiten Dieses Seminar führt ein in die grundlegenden Techniken des Schreibens wissenschaftlicher Arbeiten in der Germanistik. Schwerpunkt liegt auf der Abfassung der Doktorarbeit. Im Seminar werden unterschiedliche erfolgreiche Doktorarbeiten vorgestellt und diskutiert werden. Die Teilnehmer werden Gelegenheit haben, ihre eigenen Texte und Verfahrensweisen vorzustellen.
授業計画	Das Seminar beginnt mit der Diskussion des Sinns und Ziels von literaturwissenschaftlichen Doktorarbeiten. Arbeiten werden klassifiziert nach Inhalt, Ziel, Methode und ihre grundlegenden Merkmale werden herausgearbeitet. Das Seminar wird gängige Verfahrensweisen des literaturwissenschaftlichen Schreibens erläutern und unterschiedliche Publikationsformen vergleichen. Teilnehmer können ihre eigenen Arbeiten vorstellen und ihre Techniken und Ansätze überarbeiten.
成績評価方法	aktive Teilnahme am Unterricht, Referat und Hausarbeit, kleinere Uebingen
教科書	wird im Unterricht bekannt gegeben
参考書	
オフィスアワー	担当:ヘーゼルハウス、ヘラト オフィスアワー:火 3 (12:15-)(人社棟 A510) (オフィスアワー事前にメールにて連絡のこと) E-Mail: heselhaus.herrad.fw@u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	Academic Writing in German

授業科目名	中国文学史研究 (4A)
科目番号	02DS907
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 4
担当教員	小松 建男
授業概要	『三国志集解』巻 35 を読む。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	『三国志』を『三国志演義』と比較を前提にしながら読む。
授業計画	第 1 回導入 第 2 回系譜 第 3 回出仕以前 第 4 回隆中策 第 5 回荊州 第 6 回赤壁前後 1 第 7 回赤壁前後 2 第 8 回益州 1 第 9 回益州 2 第 10 回南征 第 11 回出師表 第 12 回王維 1 第 13 回北伐 1 第 14 回北伐 2 第 15 回論評
成績評価方法	中古漢語・史実・事物についての的確な理解力が評価の対象となる。
教科書	『三国志集解』
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	中国, 文学

授業科目名	中国文学史研究 (4B)
科目番号	02DS908
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 4
担当教員	小松 建男
授業概要	『三国志集解』巻 36 を読む。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	『三国志集解』巻 36 を読む。
授業計画	第 1 回 導入 第 2 回 関羽 1 第 3 回 関羽 2 第 4 回 関羽 3 第 5 回 関羽 4 第 6 回 張飛 1 第 7 回 張飛 2 第 8 回 張飛 3 第 9 回 張飛 4 第 10 回 趙雲 1 第 11 回 趙雲 2 第 12 回 趙雲 3 第 13 回 馬超 第 14 回 黄忠 第 15 回 論評
成績評価方法	中古漢語・史実・事物についての的確な理解力が評価の対象となる。
教科書	『三国志集解』
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	中国, 文学

授業科目名	中国文学研究 (4A)
科目番号	02DS927
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 5
担当教員	稀代 麻也子
授業概要	「愁中散 [康] 言志」の塵・倫・浜・津・神・陳各韻を読む。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	可能な限り底本に忠実な訳を作成し、各注釈者の態度を確認する。
授業計画	第 1 回 ガイダンス 第 2 回 塵韻の翻字 第 3 回 塵韻諸注の比較 第 4 回 塵韻補注の作成 第 5 回 倫韻の翻字 第 6 回 倫韻諸注の比較 第 7 回 倫韻補注の作成 第 8 回 倫韻の正文・注・補注の確認 第 9 回 浜韻の翻字 第 10 回 浜韻諸注の比較 第 11 回 浜韻補注の作成 第 12 回 陳韻の翻字 第 13 回 陳韻諸注の比較 第 14 回 陳韻補注の作成 第 15 回 まとめ
成績評価方法	作品理解の深さに重点をおき評価する。
教科書	1. 『唐鈔文選集注彙存』上海古籍出版社
参考書	1. 范志新, 『文選何遜校集証』河南大学出版社 2016
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	集注, 文選

授業科目名	中国文学研究 (4B)
科目番号	02DS928
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 5
担当教員	稀代 麻也子
授業概要	「愁中散 [康] 言志」の身・真・實・辛・人・紳各韻を読む。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	作品解釈のために最適な補注について検討する。
授業計画	第 1 回 ガイダンス 第 2 回 身韻の翻字と諸注の比較 第 3 回 身韻補注の作成 第 4 回 真韻の翻字と諸注の比較 第 5 回 真韻補注の作成 第 6 回 實韻の翻字と諸注の比較 第 7 回 實韻補注の作成 第 8 回 辛韻の翻字 第 9 回 辛韻諸注の比較 第 10 回 辛韻補注の作成 第 11 回 人韻の翻字と諸注の比較 第 12 回 人韻補注の作成 第 13 回 紳韻諸注の比較 第 14 回 紳韻補注の作成 第 15 回 まとめ
成績評価方法	作品理解の深さに重点をおき評価する。
教科書	1. 『唐鈔文選集注彙存』上海古籍出版社
参考書	1. 趙俊玲, 『文選彙評』鳳凰出版社 2017
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	集注, 文選

授業科目名	中国文学特講 (4A)
科目番号	02DS947
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 6
担当教員	小松 建男, 稀代 麻也子
授業概要	先行研究に対する批評を軸に、博士論文の方向性を考える。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	先行研究に対する判断力を磨き、独自の視点で纏める力をつける。
授業計画	第 1 回ガイダンス 第 2 回古典文学研究の視座 第 3 回日本語で発表された阮籍に関する先行研究 第 4 回日本語で発表された陶淵明に関する先行研究 第 5 回日本語で発表された劉禹錫に関する先行研究 第 6 回中国語で発表された阮籍に関する先行研究 第 7 回中国語で発表された陶淵明に関する先行研究 第 8 回中国語で発表された劉禹錫に関する先行研究 第 9 回その他の言語で発表された阮籍に関する先行研究 第 10 回その他の言語で発表された陶淵明に関する先行研究 第 11 回その他の言語で発表された劉禹錫に関する先行研究 第 12 回阮籍の研究史の整理 第 13 回陶淵明の研究史の整理 第 14 回劉禹錫の研究史の整理 第 15 回まとめ
成績評価方法	発表者にとっては、文献選択の判断が的確であり、独自の視点で纏められていれば高評価とする。他の参加者にとっては、発展性のある質疑ができれば高評価とする。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	中国文学, 研究方法

授業科目名	中国文学特講 (4B)
科目番号	02DS948
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 6
担当教員	小松 建男, 稀代 麻也子
授業概要	博士論文全体の構成について検討を重ねる。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	実現可能な最高度の成果につながるように各自の研究を構築する。
授業計画	第 1 回ガイダンス 第 2 回今までの研究の確認 第 3 回阮籍論の構成案 第 4 回陶淵明論の構成案 第 5 回劉禹錫論の構成案 第 6 回阮籍論の修正案 第 7 回陶淵明論の修正案 第 8 回劉禹錫論の修正案 第 9 回阮籍論の概要案 第 10 回陶淵明論の概要案 第 11 回劉禹錫論の概要案 第 12 回阮籍論の詳細目次案 第 13 回陶淵明論の詳細目次案 第 14 回劉禹錫論の詳細目次案 第 15 回まとめ
成績評価方法	発表者にとっては、実現可能な最高度の研究成果につながるように自分の研究を構築していく姿勢が顕著であれば高評価とする。他の参加者にとっては、お互いを高め合うような質疑ができれば高評価とする。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	中国文学, 研究方法

授業科目名	一般言語学研究 (4A)
科目番号	02DT107
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 随時
担当教員	池田 潤, 臼山 利信, 金 仁和, 池田 晋
授業概要	指導教員による研究指導をふまえ、専門の異なる複数の担当教員の前で研究発表を行うことにより、自分の研究テーマを一般言語学的視座に位置づける。あわせて研究倫理について理解を深める。 Based on the regular guidance from one's supervisor, the student makes a formal academic presentation in front of faculty members with diverse background so as to contextualize his research topic in general linguistic perspective.
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	指導教員による研究指導を定期的に受けた上で、専門の異なる複数の担当教員の前で研究発表を行い、自分の研究テーマを一般言語学的視座に位置づける。 Based on the regular guidance from one's supervisor, the student makes a formal academic presentation in front of faculty members with diverse background so as to contextualize his research topic in general linguistic perspective.
授業計画	第 1 回月例会における研究発表 (1) 第 2 回月例会における研究発表 (2) 第 3 回月例会における研究発表 (3) 第 4 回月例会における研究発表 (4)
成績評価方法	研究発表と質疑応答によって評価する。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	池田 潤 金 4 限 (メールにて要予約) 人文社会学系棟 A517 ikeda.jun.fm at u.tsukuba.ac.jp 臼山 利信 火:11:30 ~ 12:10 水:11:30 ~ 12:10 木:11:30 ~ 12:10 人文社会学系棟 B713 usuyama.toshinobu.gf at u.tsukuba.ac.jp http://www.lingua.tsukuba.ac.jp/~ippan/members/staffs/Usuyama 金 仁和 kim.inhwa.gp at u.tsukuba.ac.jp 池田 晋 事前予約により随時 人文社会学系棟 B510
TF・TA	
キーワード	研究発表, 複数指導

授業科目名	一般言語学研究 (4B)
科目番号	02DT108
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 随時
担当教員	池田 潤, 臼山 利信, 金 仁和, 池田 晋
授業概要	指導教員による研究指導をふまえ、専門の異なる複数の担当教員の前で研究発表を行うことにより、自分の研究テーマをさらに掘り下げる。あわせて研究倫理について理解を深める。 Based on the regular guidance from one's supervisor, the student makes a formal academic presentation in front of faculty members with diverse background so as to dig into his research topic more deeply.
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	指導教員による研究指導を定期的に受けた上で、専門の異なる複数の担当教員の前で研究発表を行、自分の研究テーマをさらに掘り下げる。 Based on the regular guidance from one's supervisor, the student makes a formal academic presentation in front of faculty members with diverse background so as to dig into his research topic more deeply.
授業計画	第 1 回月例会における研究発表 (1) 第 2 回月例会における研究発表 (2) 第 3 回月例会における研究発表 (3) 第 4 回月例会における研究発表 (4)
成績評価方法	口頭発表と質疑応答によって評価する。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	池田 潤 金 4 限 (メールにて要予約) 人文社会学系棟 A517 ikeda.jun.fm at u.tsukuba.ac.jp 臼山 利信 火:11:30 ~ 12:10 水:11:30 ~ 12:10 木:11:30 ~ 12:10 人文社会学系棟 B713 usuyama.toshinobu.gf at u.tsukuba.ac.jp http://www.lingua.tsukuba.ac.jp/~ippan/members/staffs/Usuyama 金 仁和 kim.inhwa.gp at u.tsukuba.ac.jp 池田 晋 事前予約により随時 人文社会学系棟 B510
TF・TA	
キーワード	研究発表, 複数指導

授業科目名	一般言語学演習 (4A)
科目番号	02DT117
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 6
担当教員	池田 潤
授業概要	一般言語学に関する論文を演習形式で講読する。 We select papers and/or books in general linguistics based on the interests of participants, and read them critically in the seminar-style setting.
備考	2019 年度より 4 年おき開講。 英語で授業。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	受講者の関心をふまえて一般言語学に関する論文を選び、演習形式で講読する。 We select papers and/or books in general linguistics based on the interests of participants, and read them critically in the seminar-style setting.
授業計画	第 1 回導入 第 2 回講読 (1) 第 3 回講読 (2) 第 4 回講読 (3) 第 5 回講読 (4) 第 6 回講読 (5) 第 7 回講読 (6) 第 8 回講読 (7) 第 9 回講読 (8) 第 10 回講読 (9) 第 11 回講読 (10) 第 12 回講読 (11) 第 13 回講読 (12) 第 14 回講読 (13) 第 15 回講読 (14)
成績評価方法	・授業での発表および討論 (50%) ・最終レポート論 (50%)
教科書	1. 授業の中で指定する。
参考書	
オフィスアワー	金 4 限 (メールにて要予約) 人文社会学系棟 A517 ikeda.jun.fm at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	一般言語学演習 (4B)
科目番号	02DT118
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 6
担当教員	池田 潤
授業概要	一般言語学に関する論文の購読を継続する。 We continue reading the papers and/or books in general linguistics selected based on the interests of participants.
備考	2019 年度より 4 年おき開講。 英語で授業。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	一般言語学に関する論文の購読を継続する。 We continue reading the papers and/or books in general linguistics selected based on the interests of participants.
授業計画	第 1 回顔合わせと導入 受講者の関心に応じた脳波実験に関する論文を選ぶ。 第 2 回講読 (1) 第 3 回講読 (2) 第 4 回講読 (3) 第 5 回講読 (4) 第 6 回講読 (5) 第 7 回講読 (6) 第 8 回講読 (7) 第 9 回講読 (8) 第 10 回講読 (9) 第 11 回講読 (10) 第 12 回講読 (11) 第 13 回講読 (12) 第 14 回講読 (13) 第 15 回講読 (14) 上記は標準的な日程であり、さまざまな要因によって変更される場合がある。
成績評価方法	・授業への積極的な参加 (50%) ・最終レポート (50%)
教科書	
参考書	1. 授業の中で指定する。
オフィスアワー	金 4 限 (メールにて要予約) 人文社会学系棟 A517 ikeda.jun.fm at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	一般言語学特講 A (4A)
科目番号	02DT127
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 6
担当教員	白山 利信
授業概要	ロシア語圏諸国の言語状況・言語政策について、国内外の優れた研究成果に基づいて検討・考察する。内容は前年度と異なる。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	到達目標:現代ロシア語を巡る言語学的諸問題に関する研究に取り組むための多様な視点を整理・把握する。 テーマ:主にロシア語の格形式と機能の関係を考察する。
授業計画	履修学生の問題意識に配慮した授業内容を心がけたい。 第 1 回ロシア語のしくみ (名詞述語)(1) 第 2 回ロシア語のしくみ (名詞述語)(2) 第 3 回ロシア語のしくみ (名詞述語)(3) 第 4 回ロシア語のしくみ (名詞述語)(4) 第 5 回ロシア語のしくみ (形容詞述語)(5) 第 6 回ロシア語のしくみ (形容詞述語)(6) 第 7 回ロシア語のしくみ (形容詞述語)(7) 第 8 回ロシア語のしくみ (形容詞述語)(8) 第 9 回ロシア語の形式 (名詞の文法性と形式)(1) 第 10 回ロシア語の形式 (名詞の文法性と形式)(2) 第 11 回ロシア語の形式 (名詞の文法性と形式)(3) 第 12 回ロシア語の形式 (名詞の文法性と形式)(4) 第 13 回ロシア語の意味 (動詞のアスペクト)(1) 第 14 回ロシア語の意味 (動詞のアスペクト)(2) 第 15 回ロシア語の意味 (動詞のアスペクト)(3)
成績評価方法	平常点とレポートにより評価する。
教科書	授業の際に教材として文献の複写などを配布する。
参考書	適宜指示する。
オフィスアワー	月・水:11:30 ~ 12:10 金:13:00 ~ 15:00
TF・TA	
キーワード	現代ロシア語, 言語形式, 言語機能, 格, 述語, 文法性

授業科目名	一般言語学特講 A (4B)
科目番号	02DT128
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 6
担当教員	白山 利信
授業概要	ロシア語圏諸国の言語状況・言語政策について、国内外の優れた研究成果に基づいて検討・考察する。内容は前年度と異なる。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	到達目標:言語政策を巡る諸問題に関する研究に取り組むための多様な視点を整理・把握する。 テーマ:主に多民族多言語国家における公用語と民族語の関係を考察する。
授業計画	履修学生の問題意識に配慮した授業を心がけたい。 第 1 回旧ソ連における消滅しつつある諸言語の問題 (1) 第 2 回旧ソ連における消滅しつつある諸言語の問題 (2) 第 3 回旧ソ連における消滅しつつある諸言語の問題 (3) 第 4 回旧ソ連における消滅しつつある諸言語の問題 (4) 第 5 回ロシア語圏諸国の言語状況と言語政策 (1) 第 6 回ロシア語圏諸国の言語状況と言語政策 (2) 第 7 回ロシア語圏諸国の言語状況と言語政策 (3) 第 8 回ロシア語圏諸国の言語状況と言語政策 (4) 第 9 回ロシア語圏諸国の言語状況と言語政策 (5) 第 10 回ロシア語圏諸国の言語状況と言語政策 (6) 第 11 回ロシア語圏諸国の言語状況と言語政策 (7) 第 12 回ロシア語圏諸国の言語状況と言語政策 (8) 第 13 回ロシア語圏諸国以外の言語状況と言語政策 (1) 第 14 回ロシア語圏諸国以外の言語状況と言語政策 (2) 第 15 回ロシア語圏諸国以外の言語状況と言語政策 (3)
成績評価方法	平常点とレポートにより評価する。
教科書	授業の際に教材として文献の複写などを配布する。
参考書	適宜指示する。
オフィスアワー	月・水:11:30 ~ 12:10 金:13:00 ~ 15:00
TF・TA	
キーワード	言語状況, 言語政策, ロシア語圏諸国, 国家語, ロシア語, 言語法

授業科目名	一般言語学特講 B (4A)
科目番号	02DT137
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 2
担当教員	金 仁和
授業概要	韓国語における音韻、形態、語彙表現、統語の特徴を考察する。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	現代韓国語の全般的な体系を理解し、日本語との対照を試みる。
授業計画	1. 音韻・形態構造、語彙、表現について 2. 統語、文章・論理構造、談話理解、言語コミュニケーションについて 3. 各自のテーマで、構想 中間 最終発表 レポート
成績評価方法	出席、発表、レポート
教科書	配布資料
参考書	配布資料に別記
オフィスアワー	木 3(要アポ)
TF・TA	無
キーワード	韓国語, 音韻, 文法, 表現

授業科目名	一般言語学特講 B (4B)
科目番号	02DT138
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 2
担当教員	金 仁和
授業概要	思考観点が反映された表現様相を、韓国語を対象とし、調査する。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	言語運用における文化や思考方式と、時制・指示・授受・慣用表現・あいさつことば などの表現との関連性を探る。
授業計画	<p>1. 語彙コーパスの特徴から 擬声語・擬態語 色彩語 共感覚語:感覚の共有 (例 > 視覚と聴覚)、感情の共有 (例 > 否定・中立・肯定) 外来語の受容様相 略語の種類 新造語 など</p> <p>2. 語彙運用から 過程中心/結果中心 静的描写/動的働きかけ 間接話法/直接話法 話者中心/相手中心 相対敬語/絶対敬語 など</p> <p>3. 慣用面から 慣用句 ことわざ など</p>
成績評価方法	出席、発表、レポート
教科書	配布資料
参考書	配布資料に別記
オフィスアワー	木 3(要アポ)
TF・TA	無
キーワード	思考方式, 観点, 言語運用

授業科目名	中国語学演習 (4A)
科目番号	02DT177
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 水 3
担当教員	池田 晋
授業概要	中国語の情報構造をテーマとして、基本文献を体系的に読み進め、問題点について受講者全員で議論をおこなう。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	具体的な論考の講読を通して、日本国内における中国語学の研究動向を理解し、その特徴や問題点について議論をおこなう。
授業計画	<p>楊凱榮『中国語学・日中対照論考』を読む。1 章につき 2 回~3 回の時間をかけてじっくりと精読し、その内容について全員で討論をおこなう。</p> <p>第 1 回イントロダクション</p> <p>第 2 回第 1 章を読む。</p> <p>第 3 回引き続き第 1 章を読む。</p> <p>第 4 回第 2 章を読む。</p> <p>第 5 回引き続き第 2 章を読む。</p> <p>第 6 回第 3 章を読む。</p> <p>第 7 回引き続き第 3 章を読む。</p> <p>第 8 回第 4 章を読む。</p> <p>第 9 回引き続き第 4 章を読む。</p> <p>第 10 回第 5 章を読む。</p> <p>第 11 回引き続き第 5 章を読む。</p> <p>第 12 回第 6 章を読む。</p> <p>第 13 回引き続き第 6 章を読む。</p> <p>第 14 回第 7 章を読む。</p> <p>第 15 回引き続き第 7 章を読む。</p>
成績評価方法	出席、討論への参加度、レポートにより総合的に評価する。
教科書	テキストの入手方法については、授業中に指示する。
参考書	
オフィスアワー	池田 晋 事前予約により随時 人文社会学系棟 B510
TF・TA	
キーワード	中国語学, 日中対照研究, アスペクト, 情報構造, 重畳形式

授業科目名	中国語学演習 (4B)
科目番号	02DT178
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 水 3
担当教員	池田 晋
授業概要	中国語の情報構造をテーマとして、最新の研究文献を読み進め、問題点について受講者全員で議論をおこなう。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	具体的な論文の講読を通して、日本の中国語学研究の動向について、更に理解を深め、その特徴や問題点について議論をおこなう。
授業計画	<p>楊凱榮『中国語学・日中対照論考』を読む。1 章につき 2 回~3 回の時間をかけてじっくりと読み、内容について全員で討論をおこなう。</p> <p>第 1 回第 8 章を読む。</p> <p>第 2 回引き続き第 8 章を読む。</p> <p>第 3 回第 9 章を読む。</p> <p>第 4 回引き続き第 9 章を読む。</p> <p>第 5 回第 10 章を読む。</p> <p>第 6 回引き続き第 10 章を読む。</p> <p>第 7 回第 11 章を読む。</p> <p>第 8 回引き続き第 11 章を読む。</p> <p>第 9 回第 12 章を読む。</p> <p>第 10 回引き続き第 12 章を読む。</p> <p>第 11 回第 13 章を読む。</p> <p>第 12 回引き続き第 14 章を読む。</p> <p>第 13 回第 15 章を読む。</p> <p>第 14 回引き続き第 15 章を読む。</p> <p>第 15 回まとめ</p>
成績評価方法	出席、討論への参加度、レポートにより総合的に評価する。
教科書	テキストの入手方法については、授業中に指示する。
参考書	
オフィスアワー	池田 晋 事前予約により随時 人文社会学系棟 B510
TF・TA	
キーワード	中国語学, 日中対照研究, 重畳, ヴォイス, 連体修飾, 情報構造

授業科目名	応用言語学基礎論 A
科目番号	02DT201
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 水 5,6
担当教員	一二三 朋子, 澤田 浩子, 杉本 武, 竹沢 幸一, 沼田 善子, 松崎 寛, 石田 尊
授業概要	応用言語学において基盤となるものの見方や考え方、研究倫理などを、講義を通して深めていく。
備考	
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	学術的な研究能力を高めるとともに、アカデミックキャリア形成のための基本的な情報を提供する。
授業計画	1 学期の水曜 5・6 限に応用言語学基礎論の授業を行う。
成績評価方法	授業への取り組み状況から総合して評価する。
教科書	特になし。
参考書	授業時に随時指示する。
オフィスアワー	一二三 朋子 hifumi.tomoko.gf at u.tsukuba.ac.jp 澤田 浩子 sawada.hiroko.gb at u.tsukuba.ac.jp https://www.lingua.tsukuba.ac.jp/~sawada/ 杉本 武 メールによるアポイントメント 人文社会学系棟 B414 sugimoto.takeshi.ge at u.tsukuba.ac.jp http://www.u.tsukuba.ac.jp/~sugimoto.takeshi.ge/ 竹沢 幸一 月 3 限またはアポイントメント takezawa.koichi.gn at u.tsukuba.ac.jp 沼田 善子 金:面会は、必ず事前にメール等で予約してください。 人文社会学系棟 numata.yoshiko.gb at u.tsukuba.ac.jp 松崎 寛 matsuzaki.hiroshi.fp at un.tsukuba.ac.jp http://www.u.tsukuba.ac.jp/~matsuzaki.hiroshi.fp/
TF・TA	
キーワード	応用言語学, 研究方法

授業科目名	応用言語学基礎論 B
科目番号	02DT202
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 随時
担当教員	一二三 朋子, 澤田 浩子, 杉本 武, 竹沢 幸一, 沼田 善子, 松崎 寛, 石田 尊
授業概要	応用言語学において基盤となるものの見方や考え方などを、議論を通して深めていく。
備考	
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	学術的な研究能力を高めるとともに、アカデミックキャリア形成のための基本的な情報を提供する。
授業計画	毎月開催される応用言語学月例会に参加する。
成績評価方法	月例会への取り組みの状況と出席率から総合して評価する。
教科書	特になし。
参考書	授業時に随時指示する。
オフィスアワー	一二三 朋子 hifumi.tomoko.gf at u.tsukuba.ac.jp 澤田 浩子 sawada.hiroko.gb at u.tsukuba.ac.jp https://www.lingua.tsukuba.ac.jp/~sawada/ 杉本 武 メールによるアポイントメント 人文社会学系棟 B414 sugimoto.takeshi.ge at u.tsukuba.ac.jp http://www.u.tsukuba.ac.jp/~sugimoto.takeshi.ge/ 竹沢 幸一 月3限またはアポイントメント takezawa.koichi.gn at u.tsukuba.ac.jp 沼田 善子 金:面会は、必ず事前にメール等で予約してください。 人文社会学系棟 numata.yoshiko.gb at u.tsukuba.ac.jp 松崎 寛 matsuzaki.hiroshi.fp at un.tsukuba.ac.jp http://www.u.tsukuba.ac.jp/~matsuzaki.hiroshi.fp/
TF・TA	
キーワード	応用言語学基礎論, 研究方法

授業科目名	日本語教育学研究 (4A)
科目番号	02DT239
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 金 4
担当教員	松崎 寛
授業概要	日本語教育学分野の論文講読を通じ、クリティカルに物事を捉える基礎的な力を身につける。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	日本語教育方法の改善に役立つと思われる論文を取り上げ、方法論上の問題点や、推論の妥当性について全員で討議する。
授業計画	<p>「日本語教育方法の改善に役立つと思われる実験・調査を行っている論文 (日本語)」をとりあげ、その研究の方法論に関して討議する。受講生は、口頭による発表方法を工夫し、また積極的に議論に参加することが期待される。</p> <p>第 1 回日本語教育学、日本語教育方法論、およびクリティカルシンキングに関する授業担当者の講義</p> <p>第 2 回日本語教育学、日本語教育方法論、およびクリティカルシンキングに関する授業担当者の講義</p> <p>第 3 回日本語教育学分野の論文講読および討議</p> <p>第 4 回日本語教育学分野の論文講読および討議</p> <p>第 5 回日本語教育学分野の論文講読および討議</p> <p>第 6 回日本語教育学分野の論文講読および討議</p> <p>第 7 回日本語教育学分野の論文講読および討議</p> <p>第 8 回日本語教育学分野の論文講読および討議</p> <p>第 9 回日本語教育学分野の論文講読および討議</p> <p>第 10 回日本語教育学分野の論文講読および討議</p> <p>第 11 回日本語教育学分野の論文講読および討議</p> <p>第 12 回日本語教育学分野の論文講読および討議</p> <p>第 13 回日本語教育学分野の論文講読および討議</p> <p>第 14 回日本語教育学分野の論文講読および討議</p> <p>第 15 回日本語教育学分野の論文講読および討議</p>
成績評価方法	出席、発表、討論参加、他者評価内容、期末課題等による総合判定。
教科書	
参考書	授業内で適宜紹介する。
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	日本語教育学、日本語教育方法論、クリティカルシンキング

授業科目名	日本語教育学研究 (4B)
科目番号	02DT240
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 金 4
担当教員	松崎 寛
授業概要	日本語教育方法の改善に役立つ論文を取り上げ、方法論上の問題点や、推論の妥当性を検討する。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	現在の日本語教育が拠って立つ言語観、日本語教育観を把握し、これからの日本語教育に必要な言語研究、言語教育について考察する。
授業計画	<p>テキスト『コミュニケーションのための日本語教育文法』（野田尚史編、くろしお出版）の内容を批判的に検討することにより、日本語教育の理論と実践を「コミュニケーション」と「文法」という 2 つの視点から考察する。</p> <p>第 1 回オリエンテーション:本講義の目的と概要</p> <p>第 2 回外国語教授法の史的変遷と文法</p> <p>第 3 回「コミュニケーションのための日本語教育文法の設計図」の批判的検討</p> <p>第 4 回「コミュニケーションに役立つ日本語教育文法」の批判的検討</p> <p>第 5 回「日本語学的文法から独立した日本語教育文法」の批判的検討</p> <p>第 6 回「学習者の習得を考慮した日本語教育文法」の批判的検討</p> <p>第 7 回「学習者の母語を考慮した日本語教育文法」の批判的検討</p> <p>第 8 回「コミュニケーション能力を高める日本語教育文法」の批判的検討</p> <p>第 9 回「聞くための日本語教育文法」の批判的検討</p> <p>第 10 回「話すための日本語教育文法」の批判的検討</p> <p>第 11 回「読むための日本語教育文法」の批判的検討</p> <p>第 12 回「書くための日本語教育文法」の批判的検討</p> <p>第 13 回関連する論文の批判的検討</p> <p>第 14 回関連する論文の批判的検討</p> <p>第 15 回関連する論文の批判的検討</p>
成績評価方法	出席, 発表, 討論参加, 他者評価内容, 期末課題等による総合判定。
教科書	野田尚史 (編) 『コミュニケーションのための日本語教育文法』（くろしお出版、2005）
参考書	授業内で適宜指示する
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	日本語教育文法, 4 技能, 批判的検討

授業科目名	日本語教育学演習 (4A)
科目番号	02DT249
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 3
担当教員	一二三 朋子
授業概要	大量のデータを分析する際に必要な統計について概説し、統計を使った論文講読や、統計を使った研究計画について検討する。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	量的研究における統計の理解を深める。
授業計画	<p>統計を使った論文を講読し、統計がどのように使われているかの理解を促す。</p> <p>第 1 回オリエンテーション。これからの予定について。</p> <p>第 2 回統計を使った論文講読 1 回目:統計を使うための予備知識</p> <p>第 3 回統計を使った論文講読 2 回目:さまざまな尺度</p> <p>第 4 回統計を使った論文講読 3 回目:有意差</p> <p>第 5 回統計を使った論文講読 4 回目: 二乗検定</p> <p>第 6 回統計を使った論文講読 5 回目: 二乗検定の実習</p> <p>第 7 回統計を使った論文講読 6 回目:平均値と分散</p> <p>第 8 回統計を使った論文講読 7 回目:平均値と分散の実習</p> <p>第 9 回統計を使った論文講読 8 回目:t 検定</p> <p>第 10 回統計を使った論文講読 9 回目:t 検定の実習</p> <p>第 11 回統計を使った論文講読 10 回目:分散分析の考え方</p> <p>第 12 回統計を使った論文講読 11 回目:1 要因の分散分析</p> <p>第 13 回統計を使った論文講読 12 回目:交互作用</p> <p>第 14 回統計を使った論文講読 13 回目:多重比較</p> <p>第 15 回統計のまとめ</p>
成績評価方法	出席率 70% 以上。 授業で出した課題の提出物などから評価。
教科書	教科書はなし。講読する論文については、授業時に紹介する。
参考書	
オフィスアワー	随時。要アポ
TF・TA	
キーワード	量的研究, 統計, 研究計画

授業科目名	日本語教育学演習 (4B)
科目番号	02DT250
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 3
担当教員	一二三 朋子
授業概要	受講者の論文テーマに沿って、研究方法や分析方法について討論し、統計の利用の仕方を検討する。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	量的研究について、統計を応用した研究計画を考える。
授業計画	統計の中でも関係を見る統計についての理解を深める。 第 1 回統計を使った論文講読 15 回目:関係を見る統計 第 2 回統計を使った論文講読 16 回目:相関 第 3 回統計を使った論文講読 17 回目:相関の実習 第 4 回統計を使った論文講読 18 回目:因子分析 第 5 回統計を使った論文講読 19 回目:因子分析の実習 第 6 回統計を使った論文講読 20 回目:回帰分析 第 7 回統計を使った論文講読 21 回目:単回帰分析 第 8 回統計を使った論文講読 22 回目:重回帰分析 第 9 回統計を使った論文講読 23 回目:パス解析 第 10 回統計を使った論文講読 24 回目:要因計画 第 11 回統計を使った論文講読 25 回目:被験者内と被験者間 第 12 回統計を使った論文講読 26 回目:多重比較 第 13 回統計を使った論文講読 27 回目:質問紙の作り方 第 14 回統計を使った論文講読 28 回目:データ入力 第 15 回統計を使った論文講読 29 回目:結果の読み方
成績評価方法	出席率 70% 以上。授業時の課題などから評価。
教科書	教科書はない。授業時に参考図書や論文などを紹介する。
参考書	
オフィスアワー	随時 (要アポ)
TF・TA	
キーワード	量的研究, 統計, 研究計画

授業科目名	日本語構造論研究 (4A)
科目番号	02DT259
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 金 2
担当教員	杉本 武
授業概要	記述的研究の立場から現代日本語の格と動詞の分析を行いながら、記述的研究のあるべき姿を考える。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	記述的研究の意義を見直し、その方法論を身につける。
授業計画	第 1 回記述的研究とは何か (1) 第 2 回記述的研究とは何か (2) 第 3 回格をどのように捉えるか (1) 第 4 回格をどのように捉えるか (2) 第 5 回格とヴォイス、アスペクトとの関係 第 6 回ヲ格の諸問題 第 7 回ヲ格の分析 (1) 第 8 回ヲ格の分析 (2) 第 9 回ヲ格の分析 (3) 第 10 回ヲ格の分析 (4) 第 11 回ヲ格の分析 (5) 第 12 回ヲ格の分析 (6) 第 13 回ヲ格とその他の格 (1) 第 14 回ヲ格とその他の格 (2) 第 15 回まとめ
成績評価方法	授業への参加度とレポートを総合して評価する。
教科書	授業時にプリントを配布する。
参考書	授業時に適宜指示する。
オフィスアワー	メールによるアポイントメント 人 文 社 会 学 系 棟 B414 sugimoto.takeshi.ge at u.tsukuba.ac.jp http://www.u.tsukuba.ac.jp/~sugimoto.takeshi.ge/
TF・TA	
キーワード	日本語文法論, 記述的研究

授業科目名	日本語構造論研究 (4B)
科目番号	02DT260
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 金 2
担当教員	杉本 武
授業概要	コーパスを用いた言語研究の手法を学び、現代日本語の格、動詞等の分析を行う。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	コーパスの適正な利用法について理解を深める
授業計画	第 1 回コーパスとは何か (1) 第 2 回コーパスの利用法 第 3 回コーパス言語学の方法 第 4 回受講者による発表と討論 (1) 第 5 回受講者による発表と討論 (2) 第 6 回受講者による発表と討論 (3) 第 7 回受講者による発表と討論 (5) 第 8 回受講者による発表と討論 (6) 第 9 回受講者による発表と討論 (7) 第 10 回受講者による発表と討論 (8) 第 11 回受講者による発表と討論 (9) 第 12 回受講者による発表と討論 (10) 第 13 回受講者による発表と討論 (11) 第 14 回受講者による発表と討論 (12) 第 15 回まとめ
成績評価方法	授業への参加度と研究発表を総合して評価する。
教科書	授業時に配布する。
参考書	授業時に適宜指示する。
オフィスアワー	メールによるアポイントメント 人 文 社 会 学 系 棟 B414 sugimoto.takeshi.ge at u.tsukuba.ac.jp http://www.u.tsukuba.ac.jp/~sugimoto.takeshi.ge/
TF・TA	
キーワード	コーパス言語学, 日本語文法論, 記述的研究

授業科目名	日本語構造論演習 (4A)
科目番号	02DT269
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 5
担当教員	沼田 善子
授業概要	現代日本語の主語省略、文末詞等に関わる諸現象について「主観性」の観点から考察する。考察は他言語との比較対照も交え日本語教育等への応用を視野に入れて進める。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	現代日本語の主語省略、文末詞等に関わる諸現象に関する研究の現状と課題についての理解を深めると同時に、記述的研究の方法論を学ぶ。
授業計画	<p>現代日本語の主語省略、文末詞等に関わる諸現象について、これらを扱う主要論文を読み、これに対する受講者全員での討論を通して、研究の現状を理解し、課題を整理する。</p> <p>第 1 回イントロダクション 第 2 回主語省略、文末詞等に関する主要文献の講読 第 3 回主語省略、文末詞等に関する主要文献の講読 第 4 回主語省略、文末詞等に関する主要文献の講読 第 5 回主語省略、文末詞等に関する主要文献の講読 第 6 回受講者の設定したテーマでの研究発表及び討論 第 7 回主語省略、文末詞等に関する主要文献の講読 第 8 回受講者の設定したテーマでの研究発表及び討論 第 9 回受講者の設定したテーマでの研究発表及び討論 第 10 回受講者の設定したテーマでの研究発表及び討論 第 11 回受講者の設定したテーマでの研究発表及び討論 第 12 回受講者の設定したテーマでの研究発表及び討論 第 13 回受講者の設定したテーマでの研究発表及び討論 第 14 回受講者の設定したテーマでの研究発表及び討論 第 15 回まとめ</p>
成績評価方法	授業時の発表と討論への参加のあり方を相互的に判断して、評価する。
教科書	特になし。
参考書	授業時に随時指示する。
オフィスアワー	金:面会は、必ず事前にメール等で予約してください。 人文社会学系棟 numata.yoshiko.gb at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	現代日本語, 主語省略, 文末詞, 記述的研究

授業科目名	日本語構造論演習 (4B)
科目番号	02DT270
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 5
担当教員	沼田 善子
授業概要	現代日本語の主語省略、文末詞等に関わる諸現象について、受講者の発表とそれに対する討論を通し、「主観性」の観点から考察する。考察は他言語との比較対照も交え、日本語教育等への応用を視野に入れて進める。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	現代日本語文法の記述的研究の現状と課題について理解を深め、これを踏まえた受講者各自の研究発表と討論を通して、記述的研究の方法論を学ぶ。
授業計画	現代日本語の主語省略、文末詞等に関わる諸現象について、受講者の発表とそれに対する討論を通し、「主観性」の観点から考察する。 第 1 回受講者の発表及び討論 第 2 回受講者の発表及び討論 第 3 回受講者の発表及び討論 第 4 回受講者の発表及び討論 第 5 回受講者の発表及び討論 第 6 回受講者の発表及び討論 第 7 回受講者の発表及び討論 第 8 回受講者の発表及び討論 第 9 回受講者の発表及び討論 第 10 回受講者の発表及び討論 第 11 回受講者の発表及び討論 第 12 回受講者の発表及び討論 第 13 回受講者の発表及び討論 第 14 回受講者の発表及び討論 第 15 回受講者の発表及び討論
成績評価方法	授業時の発表と討論への参加のあり方を相互的に判断して、評価する。
教科書	特になし。
参考書	授業時に随時指示する。
オフィスアワー	金:面会は、必ず事前にメール等で予約してください。 人文社会学系棟 numata.yoshiko.gb at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	記述的研究, 現代日本語, 文法

授業科目名	対照言語学研究 (4A)
科目番号	02DT279
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 5
担当教員	澤田 浩子
授業概要	対照言語学的視点から、文法・談話に関する現象を取り上げ、記述・分析を行う。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	コーパス資料 (話し言葉・書き言葉) を対象に各自が分析課題を設定し、日本語教育・ 国語教育への貢献を視野に入れた実用的な研究成果のアウトプットをめざして、調 査・分析を行う。
授業計画	受講生でグループを作り、ワークショップ形式で授業を行う。 分析対象の設定や分析の手法など、各自の関心に応じて柔軟に設定できるようにす るが、 自らアイデアを出して、試行錯誤することが求められる。 テーマの詳細や授業の進め方については、初回の授業時に説明をするので欠席をしな いこと。 第 1 回 オリエンテーション (教員からワークショップの趣旨の説明、授業の進め方の 相談) 第 2~5 回 各グループでの調査分析 第 6~10 回 途中経過および暫時的成果の報告と共有 第 11~15 回 各グループでの調査の継続授業の出欠、授業中の発表・議論への貢献、 レポートを総合して評価
成績評価方法	発表担当回、毎回の議論への貢献度を総合して評価
教科書	
参考書	
オフィスアワー	澤田浩子 火:3 時限目 sawada.hiroko.gb@u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	言語使用, 言語教育, コーパス分析

授業科目名	対照言語学研究 (4B)
科目番号	02DT280
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 5
担当教員	澤田 浩子
授業概要	文法・談話の両領域に関する現象の記述をもとに、言語行動、発話行為について考察を行う。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	コーパス資料 (話し言葉・書き言葉) を対象に各自が分析課題を設定し、日本語教育・国語教育への貢献を視野に入れた実用的な研究成果のアウトプットをめざして、調査・分析を行う。
授業計画	<p>受講生でグループを作り、ワークショップ形式で授業を行う。</p> <p>分析対象の設定や分析の手法など、各自の関心に応じて柔軟に設定できるようにするが、</p> <p>自らアイデアを出して、試行錯誤することが求められる。</p> <p>内容は春学期科目 (02DT277 対照言語学研究 (3A)) のワークショップを継続するが、新規の受講も可能である。</p> <p>テーマの詳細や授業の進め方については、初回の授業時に説明をするので欠席をしないこと。</p> <p>第 1 回 オリエンテーション (教員からワークショップの趣旨の説明、授業の進め方の相談)</p> <p>第 2~5 回 各グループでの調査分析</p> <p>第 6~10 回 途中経過および暫時的成果の報告と共有</p> <p>第 11~15 回 各グループでの調査の継続</p>
成績評価方法	授業中の発表・議論への貢献、レポートを総合して評価
教科書	
参考書	
オフィスアワー	澤田浩子 火:3 時限目 sawada.hiroko.gb@u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	言語使用, 言語教育, コーパス分析

授業科目名	対照言語学演習 (4A)
科目番号	02DT289
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 月 5
担当教員	竹沢 幸一
授業概要	統語論に基づく言語間の比較・対照の方法を学ぶ。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	統語論に基づく言語間の比較・対照の方法を学ぶ。
授業計画	生成文法理論に基づいて日本語の格に関する講義と討論を行う。 第 1 回イントロ 第 2 回生成文法の理論的展開 1 第 3 回生成文法の理論的展開 2 第 4 回 Kuro 第 5 回 Kuroda 第 6 回 Shibatani 第 7 回 GB 理論の解説 第 8 回 Takezawa 第 9 回 Koizumi 第 10 回 Ura 第 11 回 Hiraiwa 第 12 回 Takahashi 第 13 回予備日 1 第 14 回予備日 2 第 15 回復習
成績評価方法	授業への貢献度 (50%) と期末レポート (50%)
教科書	授業の最初に指示する。
参考書	
オフィスアワー	月曜 2 限まではアポイントメントによる。
TF・TA	
キーワード	比較統語論, 日本語統語論, 生成文法理論, 格

授業科目名	対照言語学演習 (4B)
科目番号	02DT290
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 月 5
担当教員	竹沢 幸一
授業概要	日本語を中心に言語間の比較・対照を行いながら、人間言語の文法の個別性と普遍性について記述的及び理論的に考察を行う。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	日本語を中心に言語間の比較・対照を行いながら、人間言語の文法の個別性と普遍性について記述的及び理論的に考察する能力を養う。
授業計画	日本語と他言語との比較統語論を扱った論文の発表と討論。 第 1 回比較統語論の論文発表 1 第 2 回討論 1 第 3 回比較統語論の論文発表 2 第 4 回討論 2 第 5 回比較統語論の論文発表 3 第 6 回討論 3 第 7 回比較統語論の論文発表 4 第 8 回討論 4 第 9 回比較統語論の論文発表 5 第 10 回討論 5 第 11 回比較統語論の論文発表 6 第 12 回討論 6 第 13 回比較統語論の論文発表 7 第 14 回討論 7 第 15 回予備日
成績評価方法	授業への参加度 (50%) と期末レポート (50%)。
教科書	授業の初めに指示する。
参考書	
オフィスアワー	月曜 2 限またはアポイントメントによる。
TF・TA	
キーワード	比較統語論, 日本語統語論, 構造と意味のインターフェイス, 生成文法理論

授業科目名	日本語音韻研究 (4A)
科目番号	02DT407
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 5
担当教員	那須 昭夫
授業概要	日本語の音声・音韻に関する近年の論考を講読し、分析・考察の手法について理解を深めつつ、日本語音韻研究の新たな課題を探る。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	音韻現象および分析・考察の手法について理解を深め、先行研究の購読を通じて近年の課題について知ったうえで日本語音韻研究の課題を自ら開拓できるようにする。
授業計画	第 1 回ガイダンス、文献紹介 第 2 回音韻論の諸問題 第 3 回音韻論関連文献の講読と討議 第 4 回音韻論関連文献の講読と討議 第 5 回音韻論関連文献の講読と討議 第 6 回音韻論関連文献の講読と討議 第 7 回音韻論関連文献の講読と討議 第 8 回音韻論関連文献の講読と討議 第 9 回音韻論関連文献の講読と討議 第 10 回音韻論関連文献の講読と討議 第 11 回音韻論関連文献の講読と討議 第 12 回音韻論関連文献の講読と討議 第 13 回音韻論関連文献の講読と討議 第 14 回音韻論関連文献の講読と討議 第 15 回今学期のまとめ
成績評価方法	発表の内容、討論への参加、期末課題等による総合判定
教科書	特になし
参考書	授業内で適宜紹介する。
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	音韻論, 音韻現象

授業科目名	日本語音韻研究 (4B)
科目番号	02DT408
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 5
担当教員	那須 昭夫
授業概要	音韻理論に関する近年の論考を講読し、理論的考察の基盤となる知見について理解を深めつつ、日本語音韻研究の新たな課題を探る。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	音韻現象および音韻理論について理解を深め、先行研究の購読を通じて近年の理論的展開について知ったうえで日本語音韻研究の課題を自ら開拓できるようにする。
授業計画	第 1 回ガイダンス、文献紹介 第 2 回音韻理論の概説 第 3 回音韻論関連文献の講読と討議 第 4 回音韻論関連文献の講読と討議 第 5 回音韻論関連文献の講読と討議 第 6 回音韻論関連文献の講読と討議 第 7 回音韻論関連文献の講読と討議 第 8 回音韻論関連文献の講読と討議 第 9 回音韻論関連文献の講読と討議 第 10 回音韻論関連文献の講読と討議 第 11 回音韻論関連文献の講読と討議 第 12 回音韻論関連文献の講読と討議 第 13 回音韻論関連文献の講読と討議 第 14 回音韻論関連文献の講読と討議 第 15 回今学期のまとめ
成績評価方法	発表の内容、討論への参加、期末課題等による総合判定
教科書	特になし
参考書	授業内で適宜紹介する。
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	音韻論, 音韻理論

授業科目名	日本語文法研究 (4A)
科目番号	02DT417
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 金 5
担当教員	橋本 修, 矢澤 真人
授業概要	日本語意味論・語用論に関する動向を検討し、いくつかのトピックについて論考の検討・解説を行う。可能な範囲で他言語との対照も視野に含める。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	日本語文法論、特に意味論・語用論について、当該領域の概観・問題点を探り、先行研究や自分の研究を適切に評価・検討できる能力を身につける。
授業計画	<p>日本語の意味論、語用論を中心とした広義文法現象をあつかう。状況により応用的側面も扱うことがある。日程についても、受講者の学会発表等の事情で、内容の変更・扱う順序の変更の生じることがある。</p> <p>第 1 回ガイダンス 取り扱う資料の概観・検討・調整他</p> <p>第 2 回意味論 1-1 南部智史 2007 のサーベイ</p> <p>第 3 回意味論 1-2 南部智史 2007 を踏まえた、文法の計量研究についての検討・討議</p> <p>第 4 回意味論 2-1 坂井美日 2012 のサーベイ</p> <p>第 5 回意味論 2-2 坂井美日 2012 のサーベイを踏まえた、日本語準体法・名詞化表現についての検討・討議</p> <p>第 6 回意味論 3-1 受講者からの提案と、それに対する検討・討議 (1)</p> <p>第 7 回意味論 3-2 受講者からの提案と、それに対する検討・討議 (2)</p> <p>第 8 回意味論 3-3 受講者からの提案と、それに対する検討・討議 (3)</p> <p>第 9 回意味論 3-4 受講者からの提案と、それに対する検討・討議 (3)</p> <p>第 10 回意味論 3-5 受講者からの提案と、それに対する検討・討議 (4)</p> <p>第 11 回語用論 1-1 太田垣 2018 のサーベイ</p> <p>第 12 回語用論 1-2 太田垣 2018 を踏まえた、比喻と名詞述語文に関する検討・討議</p> <p>第 13 回語用論 2-1 受講者からの提案と、それに対する検討・討議 (1)</p> <p>第 14 回語用論 2-2 受講者からの提案と、それに対する検討・討議 (2)</p> <p>第 15 回まとめ・展望</p>
成績評価方法	発表、討議への貢献、提出物により評価
教科書	<p>事前に入手しておく文献はありません。</p> <p>授業時に各種指示・紹介します。(各回の記述も参照)</p>
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	日本語意味論, 日本語語用論, 談話文法, 文法史

授業科目名	日本語文法研究 (4B)
科目番号	02DT418
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 金 5
担当教員	橋本 修, 矢澤 真人
授業概要	日本語意味論・語用論における近年の論考を、方言・古典語等も視野に入れながら検討する。導入としては青木博史編 2011 所収の論文を検討する予定。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	日本語文法論、特に意味論・語用論について、当該領域(副助詞句とその周辺)の史的再構、通時的变化を含めた概観を行い、現段階での問題点や今後の研究テーマの洗い出しを行って、各自の研究能力の向上に資する。
授業計画	<p>第 1 回ガイダンス 取り扱う資料の概観・検討・調整</p> <p>第 2 回意味論 1-1 幸松英恵 2015,2016 のサーベイ</p> <p>第 3 回意味論 1-2 幸松英恵 2015,2016 を踏まえた、推量形モダリティの検討・討議。</p> <p>第 4 回意味論 2-1 参加者の提案と、それについての検討・討議 (1)</p> <p>第 5 回意味論 2-2 参加者の提案と、それについての検討・討議 (2)</p> <p>第 6 回意味論 2-3 参加者の提案と、それについての検討・討議 (3)</p> <p>第 7 回文法史 1-1 近藤泰弘 2000(一部) のサーベイ</p> <p>第 8 回文法史 1-2 近藤泰弘 2000 を踏まえた、中古語従属節のとらえかたについての検討・討議</p> <p>第 9 回文法史 2-1 大野小百合 1993 のサーベイ</p> <p>第 10 回文法史 2-2 大野小百合 1993 を踏まえた、諸方言の名詞化バリエーションについての検討・討議</p> <p>第 11 回文法に関する応用的研究 1</p> <p>第 12 回参加者のオリジナル発表・討議 (1)</p> <p>第 13 回参加者のオリジナル発表・討議 (2)</p> <p>第 14 回参加者のオリジナル発表・討議 (3)</p> <p>第 15 回まとめ・展望</p>
成績評価方法	発表・討論への貢献、提出物を総合的に評価
教科書	テキストの事前準備は不要。各回の使用資料を授業時に決めながら選定する。
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	意味論, 副助詞, 形式副詞

授業科目名	日本語史料研究 (4A)
科目番号	02DT437
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 4
担当教員	大倉 浩
授業概要	狂言諸台本の日本語史料としての位置づけを考える。その手がかりとして享保 15 年刊『狂言記拾遺』を読む。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	狂言台本の日本語史料としての価値を考える。古典芸能としての能・狂言の基礎知識をふまえて、享保 15 年刊『狂言記拾遺』を読む。
授業計画	<p>文献資料をひもときながら、日本語の変遷を文法/語彙を中心に確認する。資料として享保 15 年刊『狂言記拾遺』を版本で読む。授業では変体仮名に慣れるとともに、能・狂言という芸能について、ビデオや実際の舞台も見て知識を深める。その上で、他の狂言台本との読み比べをはじめ。</p> <p>第 1 回狂言について 能との共通点・相違点</p> <p>第 2 回狂言の歴史</p> <p>第 3 回狂言台本について</p> <p>第 4 回狂言記について</p> <p>第 5 回版本の講読 (本年度は巻五から)</p> <p>順次他の狂言台本との比較を進める。</p>
成績評価方法	授業への参加状況 (実際に版本を読み上げる、他の狂言台本との比較読みをする) と、期末のレポートにより評価する。
教科書	<p>版本のコピーおよび翻刻を受講者に配布する。</p> <p>参考書については、適宜授業で紹介、指示する。</p>
参考書	<p>『狂言記』(橋本・土井 新日本古典文学大系 岩波書店)</p> <p>『狂言記拾遺の研究』(北原・吉見 勉誠社)</p>
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	狂言記, 狂言のことは, 中世日本語, 近世日本語

授業科目名	日本語史料研究 (4B)
科目番号	02DT438
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 4
担当教員	大倉 浩
授業概要	残された諸流の狂言台本を『狂言記拾遺』と用語を中心に比較する。また、現在の舞台の映像も参考に、狂言用語の変容について考える。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	各流派の狂言台本と『狂言記拾遺』との内容や用語の比較を通して、狂言の日本語史料としての価値と研究法について検討する。実演を観たり演者の話を聞いたりして、より狂言についての理解を深める機会を作る。
授業計画	享保 15 年刊『狂言記拾遺』を読み、他の狂言台本との比較をその場で行う。 第 1 回古典芸能としての狂言 第 2 回狂言台本について 狂言記について 第 3 回版本の講読 (順次) 現役狂言師による実技指導も予定している。
成績評価方法	授業への参加状況 (実際に版本を読み上げる、他台本との読み比べをする) と学期末レポートによる。
教科書	版本のコピーおよび翻刻を受講者に配布する。その他の参考書は授業で適宜指示する。
参考書	『狂言記』(橋本・土井 新日本古典文学大系 岩波書店) 『狂言記拾遺の研究』(北原・吉見 勉誠社)
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	狂言, 古典芸能のことば, 狂言記, 中世日本語, 近世日本語

授業科目名	現代日本語研究 (4A)
科目番号	02DT447
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 金 4
担当教員	矢澤 真人, 橋本 修
授業概要	現代日本語に見られる現象を題材に観察し分析していくとともに, 文法研究と語彙研究との関わりについて検討していく。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	現代日本語における種々の言語現象を題材に、データ分析の手法や理論的な説明など、日本語研究に必要な知識と技能を身につけることを目的とする。
授業計画	<p>現代日本語における種々の言語現象の分析を進める。本年度は、「言語研究の実践的応用」プロジェクトと連動して、ゼミ形式で行う。</p> <p>第 1 回 (ガイダンス) 授業に関する基本的な説明を行う</p> <p>第 2 回言語研究の実践的応用のあり方 (1) 「言語研究の実践的応用」プロジェクトの基本的なアカデミックプランニングについて紹介する。</p> <p>第 3 回言語研究の実践的応用のあり方 (2) 「言語研究の実践的応用」プロジェクトの基本的な課題について紹介する。</p> <p>第 4 回言語研究の実践的応用のあり方 (3) 「言語研究の実践的応用」プロジェクトと連動する「グローバル時代の母語教育」プロジェクトについて紹介する。</p> <p>第 5 回言語研究の実践的応用のあり方 (4) 「言語研究の実践的応用」プロジェクトと連動する「次世代型辞典開発」プロジェクトについて紹介する。</p> <p>第 6 回言語研究の実践的応用の展開 (1) 「言語研究の実践的応用」プロジェクトの具体的事案について検討する。</p> <p>第 7 回言語研究の実践的応用の展開 (2) 引き続き、「言語研究の実践的応用」プロジェクトの具体的事案について検討する。</p> <p>第 8 回言語研究の実践的応用の展開 (3) 引き続き、「言語研究の実践的応用」プロジェクトの具体的事案について検討する。</p> <p>第 9 回言語研究の実践的応用の展開 (4) 引き続き、「言語研究の実践的応用」プロジェクトの具体的事案について検討する。</p> <p>第 10 回言語研究の実践的応用の展開 (5) 引き続き、「言語研究の実践的応用」プロジェクトの具体的事案について検討する。</p> <p>第 11 回言語研究の実践的応用の展開 (6) 引き続き、「言語研究の実践的応用」プロジェクトの具体的事案について検討する。</p> <p>第 12 回言語研究の実践的応用の展開 (7) 引き続き、「言語研究の実践的応用」プロジェクトの具体的事案について検討する。</p> <p>第 13 回言語研究の実践的応用の展開 (8) 引き続き、「言語研究の実践的応用」プロジェクトの具体的事案について検討する。</p> <p>第 14 回言語研究の実践的応用の展開 (9) 引き続き、「言語研究実践的応用」プロジェクトの具体的事案について検討する。</p> <p>第 15 回言語研究の実践的応用の総括 授業全体を振り返り、総括を行う。</p>
成績評価方法	
教科書	
参考書	
オフィスアワー	

TF・TA	
キーワード	日本語研究, 日本語研究の周辺領域, 言語教育, 言語情報サービス

授業科目名	現代日本語研究 (4B)
科目番号	02DT448
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 金 4
担当教員	矢澤 真人, 橋本 修
授業概要	現代日本語に見られる種々の言語現象について分析するとともに, 文法情報と語彙情報の辞書における記述について検討していく。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	現代日本語の種々の現象について、具体的な例をもとに分析していく。
授業計画	<p>言語研究の実践的応用プロジェクトと連動したゼミ形式により、言語研究の成果を言語教育や言語情報サービスに活かすための方策、および、それらの現場でどのような言語研究が求められているのかについて、検討する。主として、受講者の発表により、授業を進める。</p> <p>第 1 回ガイダンス</p> <p>第 2 回現代日本語の研究と応用 (1) 国語教育や日本語教育など、言語教育の分野において求められている言語学的な知見について検討する。</p> <p>第 3 回現代日本語の研究と応用 (2) 辞書編集や言語処理など、言語情報サービスの分野において求められている言語学的な知見について検討する。</p> <p>第 4 回現代日本語の研究と実践的応用 (1) 言語研究の周縁的な分野において、どのように言語学的な知見を提供するか、具体的な事案を元に検討する。</p> <p>第 5 回現代日本語の研究と実践的応用 (2) 引き続き、言語研究の周縁的な分野において、どのように言語学的な知見を提供するか、具体的な事案を元に検討する。</p> <p>第 6 回現代日本語の研究と実践的応用 (3) 引き続き、言語研究の周縁的な分野において、どのように言語学的な知見を提供するか、具体的な事案を元に検討する。</p> <p>第 7 回現代日本語の研究と実践的応用 (4) 引き続き、言語研究の周縁的な分野において、どのように言語学的な知見を提供するか、具体的な事案を元に検討する。</p> <p>第 8 回現代日本語の研究と実践的応用 (5) 引き続き、言語研究の周縁的な分野において、どのように言語学的な知見を提供するか、具体的な事案を元に検討する。</p> <p>第 9 回現代日本語の研究と実践的応用 (6) 引き続き、言語研究の周縁的な分野において、どのように言語学的な知見を提供するか、具体的な事案を元に検討する。</p> <p>第 10 回現代日本語の研究と実践的応用 (7) 引き続き、言語研究の周縁的な分野において、どのように言語学的な知見を提供するか、具体的な事案を元に検討する。</p> <p>第 11 回現代日本語の研究と実践的応用 (8) 引き続き、言語研究の周縁的な分野において、どのように言語学的な知見を提供するか、具体的な事案を元に検討する。</p> <p>第 12 回現代日本語の研究と実践的応用 (9) 引き続き、言語研究の周縁的な分野において、どのように言語学的な知見を提供するか、具体的な事案を元に検討する。</p> <p>第 13 回現代日本語の研究と実践的応用 (10) 引き続き、言語研究の周縁的な分野において、どのように言語学的な知見を提供するか、具体的な事案を元に検討する。</p> <p>第 14 回現代日本語の研究と実践的応用 (11) 引き続き、言語研究の周縁的な分野において、どのように言語学的な知見を提供するか、具体的な事案を元に検討する。</p> <p>第 15 回現代日本語の研究と応用 総括 現代日本語における研究成果と言語教育や辞書編集、言語処理など関連分野との関わりについて、全体の総括を行う。</p>
成績評価方法	

教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	言語研究, 言語教育, 言語情報サービス

授業科目名	日本語学演習 I(2A)
科目番号	02DT482
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 集中
担当教員	大倉 浩, 田川 拓海, 那須 昭夫, 橋本 修, 矢澤 真人
授業概要	隣接領域との関わりを意識しながら、日本語研究の方法について検討を深める。受講者の研究発表とそれについての討論を中心に進める。あわせて研究倫理について理解を深める。
備考	
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	周辺領域や、外部に対する発信手法等も含め、各自の専門的知識を深化させ適切に発表する能力を身につける。
授業計画	<p>受講者の学的背景等により内容・事項順を変更する場合がある。</p> <p>第 1 回 研究倫理の確認 受講者の研究背景等の確認とすり合わせ</p> <p>第 2 回 受講者による発表と、受講者・教員間の討議 (1)</p> <p>第 3 回 受講者による発表と、受講者・教員間の討議 (2)</p> <p>第 4 回 受講者による発表と、受講者・教員間の討議 (3)</p> <p>第 5 回 受講者による発表と、受講者・教員間の討議 (4)</p> <p>第 6 回 受講者による発表と、受講者・教員間の討議 (5)</p> <p>第 7 回 受講者による発表と、受講者・教員間の討議 (6)</p> <p>第 8 回 受講者による発表と、受講者・教員間の討議 (7)</p> <p>第 9 回 受講者による発表と、受講者・教員間の討議 (8)</p> <p>第 10 回 まとめと議論の補足</p>
成績評価方法	発表・提出物・議論への貢献を総合的に勘案して評価する。
教科書	テキストは指定しない。その他配布物等については初回授業時に連絡。
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	日本語学 学際性 プレゼンテーション

授業科目名	日本語学演習 I(2B)
科目番号	02DT483
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 集中
担当教員	大倉 浩, 田川 拓海, 那須 昭夫, 橋本 修, 矢澤 真人
授業概要	日本語研究の基本的な理念と、実用的な側面の双方について検討する。受講者の研究発表とそれについての討論を中心に進める。あわせて研究倫理について理解を深める。
備考	
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	共同研究を含めた、各自の研究内容、研究計画の向上に資する専門的知識・周辺知識をを深化させる能力を身につける。
授業計画	<p>受講者の学的背景等により内容・事項の順序に変更の生じることがある。</p> <p>第 1 回受講者の学的背景・学会発表時期等の確認、すりあわせ</p> <p>第 2 回受講者による発表と、受講者・教員間の討議 (1)</p> <p>第 3 回受講者による発表と、受講者・教員間の討議 (1)</p> <p>第 4 回受講者による発表と、受講者・教員間の討議 (1)</p> <p>第 5 回受講者による発表と、受講者・教員間の討議 (1)</p> <p>第 6 回受講者による発表と、受講者・教員間の討議 (1)</p> <p>第 7 回受講者による発表と、受講者・教員間の討議 (1)</p> <p>第 8 回受講者による発表と、受講者・教員間の討議 (1)</p> <p>第 9 回受講者による発表と、受講者・教員間の討議 (1)</p> <p>第 10 回まとめと議論の補足</p>
成績評価方法	発表、提出物、議論への貢献を総合的に勘案して評価する。
教科書	テキストの指定はなし。資料等については初回授業時に話し合う。
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	日本語学 プランニング

授業科目名	認知意味論 (4A)
科目番号	02DT507
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 月 3
担当教員	和田 尚明, 廣瀬 幸生
授業概要	言語の形式と意味の対応関係にかかわる問題について、英語と日本語を比較対照しながら考察し、しかるべき言語記述のあり方について考える。主として、言語の意味と認知に焦点をあてる。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	認知言語学的観点から言語現象を捉え、分析する方法を身につけ、かつ、具体例を用いて自らの言葉でまとめたり、解説したりできるようになることが到達目標である。この授業では、主に、言語の意味と認知にかかわる問題を中心に考察する。
授業計画	<p>言語の形式と意味の対応関係にかかわる問題について、英語と日本語を比較対照しながら考察し、しかるべき言語記述のあり方について考える。主として、言語の意味と認知にかかわる問題に焦点をあてる。なお、テキストは英語で書かれたものを扱う。</p> <p>第 1 回ガイダンス:授業のテーマの概観、授業の進め方の確認、など</p> <p>第 2 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 1</p> <p>第 3 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 2</p> <p>第 4 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 3</p> <p>第 5 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 4</p> <p>第 6 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 5</p> <p>第 7 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 6</p> <p>第 8 回中間のまとめと復習</p> <p>第 9 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 7</p> <p>第 10 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 8</p> <p>第 11 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 9</p> <p>第 12 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 10</p> <p>第 13 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 11</p> <p>第 14 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 12</p> <p>第 15 回全体のまとめと総括</p>
成績評価方法	評価は、担当箇所報告の中身、議論への参加度、タームペーパーを総合して行う。
教科書	1. 初回授業で紹介する
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	認知意味論 (4B)
科目番号	02DT508
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 月 3
担当教員	和田 尚明, 廣瀬 幸生
授業概要	言語の形式と意味の対応関係にかかわる問題について、英語と日本語を比較対照しながら考察し、しかるべき言語記述のあり方について考える。主として、構文の形式と機能に焦点をあてる。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	認知言語学的観点から言語現象を捉え、分析する方法を身につけ、かつ、具体例を用いて自らの言葉でまとめたり、解説したりできるようになることが到達目標である。この授業では、主に、構文の形式と機能に焦点を当てる。
授業計画	<p>言語の形式と意味の対応関係にかかわる問題について、英語と日本語を比較対照しながら考察し、しかるべき言語記述のあり方について考える。主として、構文の形式と機能に焦点をあてる。</p> <p>なお、テキストは英語で書かれたものを扱う。</p> <p>第 1 回第 1 回ガイダンス:授業のテーマの概観、授業の進め方の確認、など</p> <p>第 2 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 1</p> <p>第 3 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 2</p> <p>第 4 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 3</p> <p>第 5 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 4</p> <p>第 6 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 5</p> <p>第 7 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 6</p> <p>第 8 回中間のまとめと復習</p> <p>第 9 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 7</p> <p>第 10 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 8</p> <p>第 11 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 9</p> <p>第 12 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 10</p> <p>第 13 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 11</p> <p>第 14 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 12</p> <p>第 15 回全体のまとめと総括</p>
成績評価方法	評価は、担当箇所報告の中身、議論への参加度、タームペーパーを総合して行う。
教科書	1. 初回授業で紹介する。
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	生成統語論 (4A)
科目番号	02DT517
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 月 4
担当教員	加賀 信広, 島田 雅晴
授業概要	英語を中心にいくつかの文法現象を取り上げながら、生成統語論における研究の目的および手法を確認し、今後の発展の可能性を探る。主として、虚辞要素に関わる問題に焦点をあてる。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	生成統語論的観点から言語現象を捉え、分析する方法を身につけるとともに、具体例を用いて自ら分析を行い、かつ、自分の言葉で説明できるようになることが目標である。本学は、主に虚辞要素にかかわる問題に焦点をあて、英語を中心にいくつかの文法現象をとりあげる。
授業計画	<p>生成統語論の最近の論文をとりあげ、担当者を決めて内容の報告を行い、関連する項目について解説するとともに、それに基づいた討論を行う。</p> <p>第 1 回ガイダンス</p> <p>第 2 回論文の内容報告、解説、および、討論 (1)</p> <p>第 3 回論文の内容報告、解説、および、討論 (2)</p> <p>第 4 回論文の内容報告、解説、および、討論 (3)</p> <p>第 5 回論文の内容報告、解説、および、討論 (4)</p> <p>第 6 回論文の内容報告、解説、および、討論 (5)</p> <p>第 7 回論文の内容報告、解説、および、討論 (6)</p> <p>第 8 回論文の内容報告、解説、および、討論 (7)</p> <p>第 9 回論文の内容報告、解説、および、討論 (8)</p> <p>第 10 回論文の内容報告、解説、および、討論 (9)</p> <p>第 11 回論文の内容報告、解説、および、討論 (10)</p> <p>第 12 回論文の内容報告、解説、および、討論 (11)</p> <p>第 13 回論文の内容報告、解説、および、討論 (12)</p> <p>第 14 回論文の内容報告、解説、および、討論 (13)</p> <p>第 15 回論文の内容報告、解説、および、討論 (14)</p>
成績評価方法	プレゼンテーションの内容と学期末のタームペーパーの内容を総合して判断する。
教科書	第 1 回の授業時に指示する。
参考書	授業時に随時指示する。
オフィスアワー	メールで随時予約。
TF・TA	
キーワード	生成文法, 統語論, 虚辞

授業科目名	生成統語論 (4B)
科目番号	02DT518
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 月 4
担当教員	加賀 信広, 島田 雅晴
授業概要	英語を中心にいくつかの文法現象を取り上げながら、生成統語論における研究の目的および手法を確認し、今後の発展の可能性を探る。主として、adposition に関わる問題に焦点をあてる。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	生成統語論的観点から言語現象を捉え、分析する方法を身につけるとともに、具体例を用いて自ら分析を行い、かつ、自分の言葉で説明できるようになることが目標である。本学期は、主に adposition にかかわる問題に焦点をあて、英語を中心にいくつかの文法現象をとりあげる。
授業計画	生成統語論の最近の論文をとりあげ、担当者を決めて内容の報告を行い、関連する項目について解説するとともに、それに基づいた討論を行う。 第 1 回ガイダンス 第 2 回論文の内容報告、解説、および、討論 (1) 第 3 回論文の内容報告、解説、および、討論 (2) 第 4 回論文の内容報告、解説、および、討論 (3) 第 5 回論文の内容報告、解説、および、討論 (4) 第 6 回論文の内容報告、解説、および、討論 (5) 第 7 回論文の内容報告、解説、および、討論 (6) 第 8 回論文の内容報告、解説、および、討論 (7) 第 9 回論文の内容報告、解説、および、討論 (8) 第 10 回論文の内容報告、解説、および、討論 (9) 第 11 回論文の内容報告、解説、および、討論 (10) 第 12 回論文の内容報告、解説、および、討論 (11) 第 13 回論文の内容報告、解説、および、討論 (12) 第 14 回論文の内容報告、解説、および、討論 (13) 第 15 回論文の内容報告、解説、および、討論 (14)
成績評価方法	プレゼンテーションの内容と学期末のタームペーパーの内容を総合して判断する。
教科書	第 1 回の授業時に指示する。
参考書	授業時に随時指示する。
オフィスアワー	メールで随時予約。
TF・TA	
キーワード	生成文法, 統語論, adposition

授業科目名	英語意味論演習 (4A)
科目番号	02DT527
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 4
担当教員	廣瀬 幸生, 和田 尚明, 金谷 優
授業概要	認知言語学・語用論研究・機能論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、語用論・機能論の論文を中心に行なう。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得するようになることが到達目標である。特に、語用論・機能論に関する文献・論文を題材にする。
授業計画	最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文の内容を学生がプレゼンテーションを行い、それに対して教員と学生で批判的な検討を加える。 第 1 回ガイダンス 第 2 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (1) 第 3 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (2) 第 4 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (3) 第 5 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (4) 第 6 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (5) 第 7 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (6) 第 8 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (7) 第 9 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (8) 第 10 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (9) 第 11 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (10) 第 12 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (11) 第 13 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (12) 第 14 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (13) 第 15 回まとめ
成績評価方法	評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度によって行う。
教科書	特になし。
参考書	下記以外は、授業時に随時指示。 1. Horn, L. R. and G. Ward eds. (2004) The Handbook of Pragmatics (Blackwell Publishing).
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	語用論, 機能論, 文献・論文のまとめと紹介, 批判的検討

授業科目名	英語意味論演習 (4B)
科目番号	02DT528
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 4
担当教員	廣瀬 幸生, 和田 尚明, 金谷 優
授業概要	認知言語学・語用論研究・機能論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、認知言語学の論文を中心に挙げる。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得するようになることが到達目標である。特に、認知言語学に関する文献・論文を題材にする。
授業計画	最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文の内容を学生がプレゼンテーションを行い、それに対して教員と学生で批判的な検討を加える。 第 1 回ガイダンス 第 2 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (1) 第 3 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (2) 第 4 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (3) 第 5 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (4) 第 6 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (5) 第 7 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (6) 第 8 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (7) 第 9 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (8) 第 10 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (9) 第 11 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (10) 第 12 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (11) 第 13 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (12) 第 14 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (13) 第 15 回まとめ
成績評価方法	評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度によって行う。
教科書	特になし。
参考書	下記以外は、授業時に随時指示。 1. Geeraerts, D. and H. Cuyckens eds. (2007) The Oxford Handbook of Cognitive Linguistics (Oxford University Press).
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	認知言語学, 認知意味論, 文献・論文のまとめと紹介, 批判的検討

授業科目名	英語統語論演習 (4A)
科目番号	02DT537
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 5
担当教員	島田 雅晴, 加賀 信広
授業概要	生成文法・統語論研究・形態論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、統語論と形態論の関係に関する論文を中心に行なう。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得するようになることが到達目標である。特に、疑問文に関する文献・論文を題材にする。
授業計画	最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文の内容を学生がプレゼンテーションを行い、それに対して教員と学生で批判的な検討を加える。 第 1 回ガイダンス 第 2 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (1) 第 3 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (2) 第 4 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (3) 第 5 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (4) 第 6 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (5) 第 7 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (6) 第 8 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (7) 第 9 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (8) 第 10 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (9) 第 11 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (10) 第 12 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (11) 第 13 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (12) 第 14 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (13) 第 15 回まとめ
成績評価方法	評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度によって行う。
教科書	特になし。
参考書	特になし。
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	生成文法, 統語論, 形態論

授業科目名	英語統語論演習 (4B)
科目番号	02DT538
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 5
担当教員	島田 雅晴, 加賀 信広
授業概要	生成文法・統語論研究・形態論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、インターフェイスに関する論文を中心に行なう。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得するようになることが到達目標である。特に、否定文に関する文献・論文を題材にする。
授業計画	最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文の内容を学生がプレゼンテーションを行い、それに対して教員と学生で批判的な検討を加える。 第 1 回ガイダンス 第 2 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (1) 第 3 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (2) 第 4 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (3) 第 5 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (4) 第 6 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (5) 第 7 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (6) 第 8 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (7) 第 9 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (8) 第 10 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (9) 第 11 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (10) 第 12 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (11) 第 13 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (13) 第 14 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (14) 第 15 回まとめ
成績評価方法	評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度によって行う。
教科書	特になし。
参考書	特になし。
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	生成文法, 統語論, 形態論

授業科目名	英語学特講 (4A)
科目番号	02DT547
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 3
担当教員	金谷 優
授業概要	英語学の文献を教材として用いながら、修士論文執筆前の学生が英語学研究を進めるうえで必要な言語学的知識、英語の読解力・表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。特に、表現力・発信力の充実を図る。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	英語学の文献を教材として用いながら、修士論文執筆前の段階の学生が英語学研究を進めるうえで必要な言語学的知識、英語の読解力・表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。特に、発信力・言語分析力の充実を図る。
授業計画	第 1 回ガイダンス 第 2 回報告者の発表に基づく、コメントと討議 (1) 第 3 回報告者の発表に基づく、コメントと討議 (2) 第 4 回報告者の発表に基づく、コメントと討議 (3) 第 5 回報告者の発表に基づく、コメントと討議 (4) 第 6 回よいアブストラクトの書き方 第 7 回アブストラクト演習 (1) 第 8 回アブストラクト演習 (2) 第 9 回アブストラクト演習 (3) 第 10 回アブストラクト演習 (4) 第 11 回プレゼンテーション演習 (1) 第 12 回プレゼンテーション演習 (2) 第 13 回プレゼンテーション演習 (3) 第 14 回プレゼンテーション演習 (4) 第 15 回まとめ
成績評価方法	評価は、タームペーパーならびに授業への貢献度を総合的に判断して行う。
教科書	初回授業時に提示する。
参考書	1. Huddleston, R. and G. K. Pullum (2002) The Cambridge Grammar of the English Language, CUP.
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	言語学的知識, 発信力

授業科目名	英語学特講 (4B)
科目番号	02DT548
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 3
担当教員	金谷 優
授業概要	英語学の文献を教材として用いながら、修士論文執筆前の段階の学生が英語学研究を進めるうえで必要な言語学的知識、英語の読解力・表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。特に、読解力・言語分析力の充実を図る。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	英語学の文献を教材として用いながら、修士論文執筆前の段階の学生が英語学研究を進めるうえで必要な言語学的知識、英語の読解力・表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。特に、読解力・言語分析力の充実を図る。
授業計画	<p>構文文法理論に関する英語で書かれた文献を使って読解力を鍛え、批判的検討を加えつつ、参加者による議論を行う。適宜、解説を加える。</p> <p>第 1 回ガイダンス 第 2 回報告者のプレゼンテーションに基づくコメントと討議 (1) 第 3 回報告者のプレゼンテーションに基づくコメントと討議 (2) 第 4 回報告者のプレゼンテーションに基づくコメントと討議 (3) 第 5 回報告者のプレゼンテーションに基づくコメントと討議 (4) 第 6 回報告者のプレゼンテーションに基づくコメントと討議 (5) 第 7 回報告者のプレゼンテーションに基づくコメントと討議 (6) 第 8 回報告者のプレゼンテーションに基づくコメントと討議 (7) 第 9 回プレゼンテーション演習と討議 (1) 第 10 回プレゼンテーション演習と討議 (2) 第 11 回プレゼンテーション演習と討議 (3) 第 12 回プレゼンテーション演習と討議 (4) 第 13 回プレゼンテーション演習と討議 (5) 第 14 回論文全体の総括と討論 第 15 回まとめ</p>
成績評価方法	授業への貢献度合い及びタームペーパーによる。
教科書	初回授業時に提示する。
参考書	1. Huddleston, R. and G. K. Pullum (2002) The Cambridge Grammar of the English Language, CUP.
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	言語学的知識, 読解力

授業科目名	フランス語学研究 (4A)
科目番号	02DT607
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 月 5
担当教員	青木 三郎
授業概要	現代フランス語研究の意義を明確にし、独自性のあるフランス語研究とは何かを事例を挙げながら理論的に考察する。日本語とフランス語使用
備考	2019 年度より 4 年おき開講。 フランス語で授業。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	現代フランス語の歴史的地位および現代における学術的・経済的価値について、多角的に検討する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. フランス語の国際的地位 (国家語の成立) 2. フランス語の国際的地位 (普遍主義と合理主義) 3. フランス語の国際的地位 (辞書編纂) 4. フランス語の国際的地位 (原文主義と翻訳主義) 5. フランス語の国際的地位 (近代フランス語と植民地的拡大) 6. フランス語の国際的地位 (哲学と文学の言語) 7. フランス語の国際的地位 (フランコフォニーの構築) 8. フランス語の国際的地位 (現代社会における国際的役割) <p>以上のテーマについて講義をし、討論を行う。</p>
成績評価方法	基本的知識の習得度、および自らの問題意識に基づく批判的考察の度合いに関して、授業中の討論、および期末試験によって測る。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	フランス語学研究 (4B)
科目番号	02DT608
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 月 5
担当教員	青木 三郎
授業概要	現代フランス語文法研究の最新成果を視野に入れて、統語論・意味論・語用論の関係を捉える。日本語とフランス語使用
備考	2019 年度より 4 年おき開講。 フランス語で授業。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	ヨーロッパにおけるフランス語の使用状況、言語政策等について現状を学び、複数言語主義について理解を深める。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヨーロッパにおけるフランス語の地位 (フランス) 2. ヨーロッパにおけるフランス語の地位 (ベルギー) 3. ヨーロッパにおけるフランス語の地位 (スイス) 4. ヨーロッパにおけるフランス語の地位 (政治、行政、法律) 5. ヨーロッパにおけるフランス語の地位 (英語との比較) 6. ヨーロッパにおける言語政策とフランス語 (ロマンス語系) 7. ヨーロッパにおける言語政策とフランス語 (東ヨーロッパ) 8. 日本におけるフランス語 <p>以上のテーマについて講義をし、討論を行う。</p>
成績評価方法	学期当初に課題を出し、学期間中にレポートの提出を求める。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	EU 言語政策, フランコフォニー, 複数言語主義

授業科目名	フランス語学演習 (4A)
科目番号	02DT617
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 月 6
担当教員	青木 三郎
授業概要	発話理論の基礎を紹介し、具体的な発話マーカーの分析を通じて、言語主観性について理論的・実証的な分析を行う。日本語とフランス語使用
備考	2019 年度より 4 年おき開講。 フランス語で授業。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	現代フランス語の語彙と文法的特徴について論じる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代フランス語の語彙の特徴 (事物を表す語彙) 2. 現代フランス語の語彙の特徴 (事物を表す語彙) 3. 現代フランス語の語彙の特徴 (人物名称) 4. 現代フランス語の語彙の特徴 (人物名称) 5. 現代フランス語の語彙の特徴 (文法的語彙) 6. 現代フランス語の語彙の特徴 (文法的語彙) 7. 現代フランス語の構文の特徴 (属詞構文の特徴) 8. 現代フランス語の構文の特徴 (属詞構文の特徴) 9. 現代フランス語の構文の特徴 (属詞構文の特徴) 10. 現代フランス語の構文の特徴 (属詞構文の特徴) <p>以上のフランス語学研究のトピックを取り上げ、講義と討論を行う。</p>
成績評価方法	フランス語の語彙あるいは文法に関するトピックを取り上げ、レポートを課する。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	現代フランス語, 語彙論, 辞書編纂, 文法, 属詞

授業科目名	フランス語学演習 (4B)
科目番号	02DT618
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 月 6
担当教員	青木 三郎
授業概要	発話理論に基づき、具体的な発話マーカークラス分析を通じて、発話間の連結に関するメカニズムについて分析する。日本語とフランス語使用
備考	2019 年度より 4 年おき開講。 フランス語で授業。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	文法カテゴリーとは何かを考察し、独自性のある文法研究を目指せるようにする。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文法カテゴリーとは何か 2. 文法カテゴリーと概念表象 3. 文法カテゴリーとしての数概念 4. 文法カテゴリーとしての数概念と表現性 5. 文法カテゴリーとしての指示限定 6. 文法カテゴリーとしての指示限定と表現性 7. 数概念の言語比較法 8. 数概念の言語比較ケーススタディ 9. 数概念と他の文法カテゴリーとの関係性 10. 数概念と主観性表現 <p>以上のトピックに関して、講義と討論を通じて、認識を深める。</p>
成績評価方法	文法研究のトピックに関してレポートと求め、また授業中には受講生自らの研究プレゼンテーションを課する。両者の総合点により成績を決定する。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	文法カテゴリー, 意味論, 語彙論

授業科目名	ドイツ語学研究 (4A)
科目番号	02DT707
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 金 4
担当教員	大矢 俊明
授業概要	関連文献を読みながら、現代ドイツ語における統語論を考察する。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	関連文献を読みながら、現代ドイツ語の統語論について考察する。
授業計画	<p>第 1 回文献を読みながら、ドイツ語における基本語順について考察する (1)。</p> <p>第 2 回文献を読みながら、ドイツ語における基本語順について考察する (2)。</p> <p>第 3 回文献を読みながら、ドイツ語における基本語順について考察する (3)。</p> <p>第 4 回文献を読みながら、ドイツ語における基本語順について考察する (4)。</p> <p>第 5 回文献を読みながら、ドイツ語における基本語順について考察する (5)。</p> <p>第 6 回文献を読みながら、ドイツ語における基本語順について考察する (6)。</p> <p>第 7 回これまでの議論をまとめ、問題点を整理する。</p> <p>第 8 回文献を読みながら、ドイツ語における基本語順と他の統語現象の関連について考察する (1)。</p> <p>第 9 回文献を読みながら、ドイツ語における基本語順と他の統語現象の関連について考察する (2)。</p> <p>第 10 回文献を読みながら、ドイツ語における基本語順と他の統語現象の関連について考察する (3)。</p> <p>第 11 回文献を読みながら、ドイツ語における基本語順と他の統語現象の関連について考察する (4)。</p> <p>第 12 回文献を読みながら、ドイツ語における基本語順と他の統語現象の関連について考察する (5)。</p> <p>第 13 回文献を読みながら、ドイツ語における基本語順と他の統語現象の関連について考察する (6)。</p> <p>第 14 回文献を読みながら、ドイツ語における基本語順と他の統語現象の関連について考察する (7)。</p> <p>第 15 回文献を読みながら、ドイツ語における基本語順と他の統語現象の関連について考察する (8)。</p>
成績評価方法	授業で講読する文献に対する準備、ならびに学期毎に行ってもらおうプレゼンテーションにより評価する。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	基本語順, SOV vs. SVO, かきませ, 虚辞

授業科目名	ドイツ語学研究 (4B)
科目番号	02DT708
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 金 4
担当教員	大矢 俊明
授業概要	関連文献を読みながら、現代ドイツ語における統語論と情報構造の関係について考察する。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	関連文献を読みながら、現代ドイツ語における統語論について、他のゲルマン語と比較しながら考察する。
授業計画	<p>第 1 回文献を読みながら、ドイツ語の形態論と語順の関係を考察する (1)。</p> <p>第 2 回文献を読みながら、ドイツ語の形態論と語順の関係を考察する (2)。</p> <p>第 3 回文献を読みながら、ドイツ語の形態論と語順の関係を考察する (3)。</p> <p>第 4 回文献を読みながら、ドイツ語の形態論と語順の関係を考察する (4)。</p> <p>第 5 回文献を読みながら、ドイツ語の形態論と語順の関係を考察する (5)。</p> <p>第 6 回文献を読みながら、ドイツ語の形態論と語順の関係を考察する (6)。</p> <p>第 7 回これまでの議論をまとめ、他のゲルマン語との比較を行う際の問題点を整理する。</p> <p>第 8 回文献を読みながら、ドイツ語と他のゲルマン語における語順について議論する (1)。</p> <p>第 9 回文献を読みながら、ドイツ語と他のゲルマン語における語順について議論する (2)。</p> <p>第 10 回文献を読みながら、ドイツ語と他のゲルマン語における語順について議論する (3)。</p> <p>第 11 回文献を読みながら、ドイツ語と他のゲルマン語における語順について議論する (4)。</p> <p>第 12 回文献を読みながら、ドイツ語と他のゲルマン語における語順について議論する (5)。</p> <p>第 13 回文献を読みながら、ドイツ語と他のゲルマン語における語順について議論する (6)。</p> <p>第 14 回文献を読みながら、ドイツ語と他のゲルマン語における語順について議論する (7)。</p> <p>第 15 回文献を読みながら、ドイツ語と他のゲルマン語における語順について議論する (8)。</p>
成績評価方法	授業で講読する文献に対する準備、ならびに学期毎に行ってもらうプレゼンテーションにより評価する。
教科書	授業中に指示する。
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	基本語順, SOV vs. SVO, かきませ, 情報構造, 焦点化

授業科目名	ドイツ語意味論 (4A)
科目番号	02DT727
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 2
担当教員	伊藤 眞
授業概要	対照言語学的観点からドイツ語と日本語の語彙をさまざまな角度から比較する。あわせてドイツ語文法についても知識を深める。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	ドイツ語意味論についての基本的な知識を習得し、併せて原著論文のドイツ語を精読する能力を向上させることができる。学生に課題発表を課す予定。
授業計画	第 1 回原著文献の精読 第 2 回原著文献の精読 第 3 回原著文献の精読 第 4 回原著文献の精読 第 5 回原著文献の精読 第 6 回原著文献の精読 第 7 回これまでのまとめ 第 8 回原著文献の精読 第 9 回原著文献の精読 第 10 回原著文献の精読 第 11 回原著文献の精読 第 12 回原著文献の精読 第 13 回原著文献の精読 第 14 回原著文献の精読 第 15 回授業のまとめ
成績評価方法	積極的な授業への参加度とレポートなどに基づき総合的に評価する。
教科書	プリントを使用する。
参考書	
オフィスアワー	事前に予約をとること。
TF・TA	
キーワード	意味論, 語彙意味論, 意味対照研究, ドイツ語文法

授業科目名	ドイツ語意味論 (4B)
科目番号	02DT728
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 2
担当教員	伊藤 眞
授業概要	対照言語学的観点からドイツ語と日本語の語彙をさまざまな角度から比較し、その共通点ならびに相違点を探る。あわせて文献精読能力の向上を図る。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	ドイツ語意味論についての基本的な知識を習得し、併せて原著論文のドイツ語を精読する能力を向上させることができる。学生に課題発表を課す予定。
授業計画	第 1 回原著文献の精読 第 2 回原著文献の精読 第 3 回原著文献の精読 第 4 回原著文献の精読 第 5 回原著文献の精読 第 6 回原著文献の精読 第 7 回これまでのまとめ 第 8 回原著文献の精読 第 9 回原著文献の精読 第 10 回原著文献の精読 第 11 回原著文献の精読 第 12 回原著文献の精読 第 13 回原著文献の精読 第 14 回原著文献の精読 第 15 回授業のまとめ
成績評価方法	積極的な授業への参加度とレポートなどに基づき総合的に評価する。
教科書	プリントを使用する。
参考書	
オフィスアワー	事前に予約をとること。
TF・TA	
キーワード	意味論, 語彙意味論, 意味対照研究, ドイツ語文法

授業科目名	ドイツ語文法論 (4A)
科目番号	02DT737
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 金 3
担当教員	大矢 俊明
授業概要	英語や日本語と比較しながら、現代ドイツ語の統語論を考察する。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	関連文献を読みながら、現代ドイツ語におけるいくつかの文法的特性を議論する。
授業計画	<p>第 1 回関連文献を読みながら、現代ドイツ語における「語順」について議論する (1)。</p> <p>第 2 回関連文献を読みながら、代ドイツ語における「語順」について議論する (2)。</p> <p>第 3 回関連文献を読みながら、現代ドイツ語における「語順」について議論する (3)。</p> <p>第 4 回関連文献を読みながら、現代ドイツ語における「語順」について議論する (4)。</p> <p>第 5 回関連文献を読みながら、現代ドイツ語における「語順」について議論する (5)。</p> <p>第 6 回関連文献を読みながら、現代ドイツ語における「語順」について議論する (6)。</p> <p>第 7 回関連文献を読みながら、現代ドイツ語における「語順」について議論する (7)。</p> <p>第 8 回関連文献を読みながら、現代ドイツ語における「語順」と「情報構造」の関係について議論する (1)。</p> <p>第 9 回関連文献を読みながら、現代ドイツ語における「語順」と「情報構造」の関係について議論する (2)。</p> <p>第 10 回関連文献を読みながら、現代ドイツ語における「語順」と「情報構造」の関係について議論する (3)。</p> <p>第 11 回現関連文献を読みながら、代ドイツ語における「語順」と「情報構造」の関係について議論する (4)。</p> <p>第 12 回関連文献を読みながら、現代ドイツ語における「語順」と「情報構造」の関係について議論する (5)。</p> <p>第 13 回関連文献を読みながら、現代ドイツ語における「語順」と「話題化」の関係について議論する (1)。</p> <p>第 14 回関連文献を読みながら、ドイツ語における「語順」と「話題化」の関係について議論する (2)。</p> <p>第 15 回関連文献を読みながら、ドイツ語における「語順」と「話題化」の関係について議論する (3)。</p>
成績評価方法	授業で講読する文献に対する準備、ならびに学期毎に行ってもらおうプレゼンテーションにより評価する。
教科書	授業中に指示する。
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	基本語順, 情報構造, 話題化

授業科目名	ドイツ語文法論 (4B)
科目番号	02DT738
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 金 3
担当教員	大矢 俊明
授業概要	関連文献を精読しながら、現代ドイツ語における統語論と情報構造の関連を考察する。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	関連文献を読みながら、現代ドイツ語におけるいくつかの文法的特性を議論する。他のゲルマン語との比較・対照を行う。
授業計画	<p>第 1 回関連文献を読みながら、現代ドイツ語における「語順」と「虚辞」の関係について議論する (1)。</p> <p>第 2 回関連文献を読みながら、現代ドイツ語における「語順」と「虚辞」の関係について議論する (2)。</p> <p>第 3 回関連文献を読みながら、現代ドイツ語における「語順」と「虚辞」の関係について議論する (3)。</p> <p>第 4 回関連文献を読みながら、現代ドイツ語における「語順」と「虚辞」の関係について議論する (4)。</p> <p>第 5 回関連文献を読みながら、現代ドイツ語における「語順」と「虚辞」の関係について議論する (5)。</p> <p>第 6 回関連文献を読みながら、現代ドイツ語における「語順」と「虚辞」の関係について議論する (6)。</p> <p>第 7 回関連文献を読みながら、現代ドイツ語における「語順」と「虚辞」の関係について議論する (7)。</p> <p>第 8 回関連文献を読みながら、現代ドイツ語における「語順」と「虚辞」の関係について議論する (8)。</p> <p>第 9 回関連文献を読みながら、現代ドイツ語における「語順」と「虚辞」の関係について議論する (9)。</p> <p>第 10 回関連文献を読みながら、現代ドイツ語における「語順」と「再構造化」の関係について議論する (1)。</p> <p>第 11 回関連文献を読みながら、現代ドイツ語における「語順」と「再構造化」の関係について議論する (2)。</p> <p>第 12 回関連文献を読みながら、現代ドイツ語における「語順」と「再構造化」の関係について議論する (3)。</p> <p>第 13 回関連文献を読みながら、現代ドイツ語における「語順」と「再構造化」の関係について議論する (4)。</p> <p>第 14 回関連文献を読みながら、現代ドイツ語における「語順」と「再構造化」の関係について議論する (5)。</p> <p>第 15 回関連文献を読みながら、現代ドイツ語における「語順」と「再構造化」の関係について議論する (6)。</p>
成績評価方法	授業で講読する文献に対する準備, ならびに学期毎に行ってもらおうプレゼンテーションにより評価する。
教科書	授業中に指示する。
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	

キーワード	語順, 虚辞, 再構造化
-------	--------------

授業科目名	ドイツ語史研究 (4A)
科目番号	02DT747
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 水 3
担当教員	伊藤 眞
授業概要	ドイツ語で書かれた専門文献を精読しながら、文献精読能力の向上を図る。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	ドイツ語史に関する文献を精読し、基本的な知識や文法的な知識を習得する。ドイツ語文献精読能力をつけることができる。学生に課題発表を課す予定。
授業計画	第 1 回原著文献の精読 第 2 回原著文献の精読 第 3 回原著文献の精読 第 4 回原著文献の精読 第 5 回原著文献の精読 第 6 回原著文献の精読 第 7 回これまでのまとめ 第 8 回原著文献の精読 第 9 回原著文献の精読 第 10 回原著文献の精読 第 11 回原著文献の精読 第 12 回原著文献の精読 第 13 回原著文献の精読 第 14 回原著文献の精読 第 15 回授業のまとめ
成績評価方法	積極的な授業への参加度やレポートなどに基づき総合的に評価する。
教科書	プリントを使用する。
参考書	
オフィスアワー	事前に予約をとること。
TF・TA	
キーワード	ドイツ語史, ドイツ語文法, 歴史言語学, ゲルマン語学

授業科目名	ドイツ語史研究 (4B)
科目番号	02DT748
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 水 3
担当教員	伊藤 眞
授業概要	ドイツ語で書かれた専門文献を精読する。教壇に立つことを想定した高度な文法知識の習得にも力を入れる。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	ドイツ語史に関する文献を精読し、基本的な知識や文法的な知識を習得する。ドイツ語文献精読能力をつけることができる。学生に課題発表を課す予定。
授業計画	第 1 回原著文献の精読 第 2 回原著文献の精読 第 3 回原著文献の精読 第 4 回原著文献の精読 第 5 回原著文献の精読 第 6 回原著文献の精読 第 7 回これまでのまとめ 第 8 回原著文献の精読 第 9 回原著文献の精読 第 10 回原著文献の精読 第 11 回原著文献の精読 第 12 回原著文献の精読 第 13 回原著文献の精読 第 14 回原著文献の精読 第 15 回授業のまとめ
成績評価方法	積極的な授業への参加度やレポートなどに基づき総合的に評価する。
教科書	プリントを使用する。
参考書	
オフィスアワー	事前に予約をとること。
TF・TA	
キーワード	ドイツ語史, ドイツ語文法, 歴史言語学, ゲルマン語学

授業科目名	形態論特講 (4)
科目番号	02DT804
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 月 4
担当教員	田川 拓海
授業概要	屈折形態論・派生形態論の研究における主要な理論・モデルや概念がどのような言語現象の分析において問題になるのか具体的に検討する。英語・日本語を中心に様々な言語を取り上げる。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	日本語を中心とした様々な言語の形態現象を取り上げ、形態論研究において基礎となる理論・モデル、用語・概念、主要な研究テーマに関する基本的な知識および研究の方法論を身に付ける。
授業計画	<p>取り上げる内容は受講生の興味・関心、授業の進み方に応じて変更する場合がある。</p> <p>第 1 回言語学における形態論の位置づけ</p> <p>第 2 回屈折形態論と派生形態論</p> <p>第 3 回形態論と隣接分野 (統語論, 音韻論,...) の関係</p> <p>第 4 回形態理論の種類:形態素基盤モデルとパラダイム基盤モデル</p> <p>第 5 回語彙主義 (lexicalism)</p> <p>第 6 回同形性 (syncretism)</p> <p>第 7 回補充法 (suppletion)</p> <p>第 8 回ゼロ形態と音挿入 (epenthesis)</p> <p>第 9 回迂言法 (periphrasis)</p> <p>第 10 回阻止 (blocking)</p> <p>第 11 回同音異義性, 類義性, 多義性 (homonymy & synonymy)</p> <p>第 12 回範疇 (category) と品詞</p> <p>第 13 回語種, 語彙層 (lexical strata)</p> <p>第 14 回外来語と借用 (loanword)</p> <p>第 15 回日本語形態論に関する対照研究</p>
成績評価方法	期末課題 (レポート) と授業への参加 (データの提供, 問題提起, 質問,...) を総合的に評価する。
教科書	特になし
参考書	<p>1. Lieber, Rochelle, 2010. <i>Introducing Morphology</i>. Cambridge University Press.</p> <p>2. 漆原朗子 (編), 2016. 『朝倉日英対照言語学シリーズ 4 形態論』朝倉書店.</p>
オフィスアワー	<p>木:8:40-9:55</p> <p>人文社会学系棟 A613 tagawa.takumi.kp at u.tsukuba.ac.jp</p>
TF・TA	
キーワード	形態論, 形態統語論, 語形成, 語構成, 語形変化

授業科目名	文法論特講 (4)
科目番号	02DT809
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 6
担当教員	石田 尊
授業概要	現代日本語の主語や主題、叙述関係に関するいくつかの問題を検討していく。取り上げた問題に対する受講者の分析を提示してもらう場合がある。
備考	2019 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	現代日本語の主語・主題・叙述の問題について、授業において提示される基本的な現象や先行研究を分析・検討し、受講者自身の観点や理論的立場からの分析が提示できるようにする。
授業計画	<p>毎回講義形式で現代日本語の主語や主題、叙述関係に関する話題を提示していく。受講者は、提示された話題に対する分析を小レポートおよび期末のレポートとして提出する。</p> <p>第 1 回イントロダクション 第 2 回主語 (1) 主語の機能 第 3 回主語 (2) 主語とヴォイス 第 4 回主語 (3) 主語と完全機能結合 第 5 回主語 (4) 斜格主語 第 6 回主語 (5) 従属節中の主語 第 7 回主題 (1) 主題の格 第 8 回主題 (2) 主題構文と多重主格構文 第 9 回主題 (3) 主題の出現と文構造 第 10 回叙述 (1) 叙述の種類 第 11 回叙述 (2) 主語・主題と叙述関係 第 12 回叙述 (3) 二次叙述 第 13 回主語・主題の認可 (1) アプローチの検討 第 14 回主語・主題の認可 (2) 妥当性の検証 第 15 回総括</p>
成績評価方法	毎回の小レポートおよび期末のレポートの内容をもって評価する。配点は小レポートが総成績の 30%、期末レポートが 70% である。
教科書	授業時にプリントを配付する。
参考書	<p>1. 仁田義雄・村木新次郎・柴谷方良・矢澤真人, 『日本語の文法 1 文の骨格』, 岩波書店, 2000 年</p> <p>2. 益岡隆志・仁田義雄・郡司隆男・金水敏, 『岩波講座言語の科学 5 文法』, 岩波書店, 1997 年</p> <p>その他、授業時に適時指示する。</p>
オフィスアワー	特に定めないので、必ず事前にメールにて日程の調整をすること。 ishida.takeru.ft at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	主語, 斜格主語, 主題, 多重主格, 叙述